

第七十六回
帝國議會
貴族院

樺太開發株式會社法案特別委員會會議事速記録第三號

昭和十六年二月十八日(火曜日)午後一時
四十四分開會

○委員長(伯爵兒玉秀雄君) ソレデハ開會ヲ致シマス、昨日ニ續イテ質疑ヲ繼續致シタイト思ヒマス

○子爵梅園篤彦君 樺太ニ於ケル農業ノ不振ハ、其ノ收入ガ鑛山労働者ノ收入ニ比較致シマシテ、遙ニ少イト云フコトガ其ノ主要原因ノ一ツデアルト考ヘマス、就キマシテハ農民ノ收入ト販賣産業ニ從事スル者ノ收入、即チ石炭山ナドノ鑛山ニ働ク労働者ノ收入トヲ比較シテ御示ガ願ヒタイト思ヒマス、又鑛山労働者ノ労働ノ内鮮人ニ分ケマシテ、併セテ御示ヲ願ヒタイノデアリマス、尙鮮人労働者ノ労働力、其ノ能率、又其ノ長所短所ト云ツヤウナコトニ付キマシテ、此ノ際御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

○政府委員(小河正儀君) 只今御尋ノ點ニ付キマシテハ、農業者ノ收入ノ狀況ニ關シマシテハ恰モ昭和十三年ニ經濟調査ヲ致シマシテ結果ガゴザイマシテ、是ハ多分御手許ニ差出シマシタ材料ノ中ニアリマス、樺太ニ於ケル農業經濟調査ト云フノデ、大體三樣ノ經營法式……大體八町歩ヲ經營致シテ居リマスル農家五戸ノ成績ガ平均デゴザイマシテ、御手許ニアリマスヤウニ、大體農家ノ總投資額六千圓餘、其ノ中デ農業資本ガ約四千五百圓デアリマシテ、此ノ年收ガ農業收入ニ於テ二千餘圓、農業以外ノ收入ニ於キマシテ二百五十圓、合計致シマシテ二千三百四十四圓ナニガシト云フ收入ニ

對シマシテ、支出ガ總計デ二千七百八十八圓ト相成リマシテ、差引剩餘金ヲ二百六十七圓殘シテ居ルト云フ計算ト相成リマシテ、此ノ支出ノ内デ労働力ハ一日當リ一人平均二圓四十二錢ト云フ收入ニナルト云フ計算ガ出テ居リマス、是ハ此ノ純益ヲナニシタ譯デナイ、此ノ經營費ノ支出ノ内ノ計算ニ相成ツテ居ルモノト思ヒマスガ、大體十三年ニ於ケル實績ハ斯樣ナ數字デゴザイマスルガ、十四年、十五年ト農産物ノ價格ガ騰貴ヲ致シテ居リマスルノデ、其ノ後ノ經營ノ狀態ハ是ヨリカ良クナツテ居ルト考ヘテ居リマス、ソレカラ鑛夫ノ労働ノ問題デゴザイマスルガ、同ジ年ヲ採ツテ見マスルト、昭和十三年ノ結果ニ依リマスルト、一坑當リノ賃銀ハ採炭夫デ三圓九十六錢、坑内夫デ三圓五十五錢、全坑夫ヲ平均ニ致シマス二圓八十六錢ト云フ數字ニ相成ツテ居リマス、是ガ昭和十四年ノ統計ニ依リマスルト、採炭夫ガ四圓八十二錢、坑内夫ガ四圓四十二錢、全坑夫ノ平均ガ三圓四十一錢ト相成ツテ居リマス、サウシテ昭和十五年ハ是ヨリモツト其ノ收入ハ多クナツテ居ルト思ヒマスルガ、只今手許ニ精密ナル調ノ結果ノ數字ガゴザイマセスノデ御答ヲ致シ兼ねマスルガ、先ヅザツト申上ゲマシテ、非常ニ能ク稼ギマス者ハ、無論「ピース・ウオーク」ニ依リマシテ、出炭稼高ニ應ジテ賃銀ガ違ヒマス、能ク働キマス者デ一日十圓以上ノ賃銀ヲ得ル者ガ少クナイサウデゴザイマス、普通ハ矢張り五圓程度デナイダラウカト想像致シテ居リ

マス、併シナガラ此ノ收入ガ多クナルニ連レマシテ、坑夫ノ稼働率、即チ出勤歩合デゴザイマス、是ガ非常ニ惡クナツテ參リマシテ、大體三分ノ二、即チ七十「パーセント」位ノ稼働歩合ニナツテ居ルノデハナイカト存ジテ居リマス、ソレカラ鮮人労働者ヲ入レマシタ結果、鮮人ノ賃銀デアリマスルガ、是モ單價ニ於テハ別段區別ヲ付ケテ居ラナイ筈デゴザイマス、唯稼働ノ能率ノ工合デ、出炭歩合ニ依ル賃銀ノ渡シ方デ、内地人ノ労働者ヨリモ多少能率ハ落チルサウデゴザイマシテ、其ノ點ニ於テ賃銀ガ多少少クナルト思ヒマス、併シナガラ昨年入レマシタ……マア初メテ入レタラデスガ、昨年入レマシタ半島労働者ノ炭鑛ニ於ケル勤務ハ、稼働率ガ非常ニ良イヤウデゴザイマシテ、内地人ヨリモ缺勤ヲスル日數ガ非常ニ少イ、此ノ點デハ炭鑛ノ方デ非常ニ喜ンデ居リマス、恐ラク是ハ八十五「パーセント」位ニ稼働率ガナツテ居ルノデハナイカト思ヒマス、ソレデ炭鑛ノ一部ニ於テハ却テ喜ブ、又鮮人ニ割當テル仕事ノ種類ニ依ツテハ、却テ鮮人ノ方ガ宜イト云フコトヲ申シテ居ルモノモアルヤウデゴザイマスルガ、唯最モ困リマスルコトハ、人情、風俗、言語ヲ異ニ致シテ居リマスルノデ、何デモナイコトカラ感情ノ齟齬ヲ來シテ、集團ノ運動ト云フヤウナモノニ陥ル虞ガゴザイマス、是ハ一二ノ例ガゴザイマシタ、御承知ノヤウニ昨年ハ樺太ニ非常ニ食糧ガ缺乏致シマシタノデ、各炭鑛ニ對シマシテモ代用食ノ獎勵ヲ致シ

テ、代用食ヲ給與セザルヲ得ヌ實情ニ相成リマシタノデ、鮮人飯場ニ餽飪ヲ配給シテ食ベサシタ處ガ、半島人ノミニ之ヲ食ベサシテ、内地人労働者ニハ食ベサセナイデアラウト云フ誤解カラ……事實上ハ全鑛夫ニ同様ニ扱ツテ居ルノデゴザイマスルガ、鑛夫ノ一部ガ團體ヲ以テ入坑ヲ拒ンダト云フ事例ガ發生シタ事實ハゴザイマスルガ、是ハ誤解ダト云フコトガ分ツテ間モナク解決致シマシタ、斯樣ナル點ハ誤解ノ生ゼザルヤウニ今後務メマスルナラバ、サシタル問題ハナイデアラウト思ヒマス、併シナガラ昨年カラ初メテ鮮人労働者ヲ入レテゴザイマスルノデ、最初ニヨク良イ習慣ヲ付ケテ置クト云フコトガ大事デゴザイマスルノデ、協和會ヲ結成致シマシテ鮮人ノ指導ニ萬全ヲ期シタイト考ヘテ居リマスルシ、一方言語ノ不通カラ色々事故ヲ生ジマスルノデ、言葉ニ通ジタ警察官ヲ朝鮮總督府カラ十數名戴キマシテ、之ヲ半島労働者ノ多い地方ノ警察ニ配置致シマシテ、ソレガ連絡融和ニ實ハ力ヲ致シテ居ルヤウナ實情デゴザイマス

○子爵梅園篤彦君 鮮人労働者ハ監督ノ目ガアル場合ニハ非常ニ能ク働キマスルガ、一旦監督ノ目ガナクナリマスルト非常ニサボルト云フヤウナコトヲ聞キマシタガ、サウ云ツタコトハナイノデアリマセウカ、鮮人労働者ニ對シテ特ニ監督フセニヤナラスト云フヤウナコトハナイノデアリマスカ、此ノ點ヲ御伺ヒ致シマス

○政府委員(小河正儀君) サウ云フヤウナ

著シイ點ハ只今迄認メテ居リマセヌデゴザ
イマスルガ、唯鮮人ニ對シテハ内地人ガ監
督ヲ致シマスルヨリモ、鮮人ノ飯場長ト申
シマスルカ、組長ト申シマスルカ、ト云フ
内地ニ暫ク居テ熟練工ヲ組長ノヤウナモノ
ニ扱ヒマシテ、サウシテ編成ヲ各炭礦トモ
致シテ居ルヤウデゴザイマス、ドウモ其ノ
方ガ言葉ヤ何カノ關係デ工合ガ好イヤウニ
見受ケラレマス、唯炭礦ノ賃銀ハ一定ノ基
準賃銀ハゴザイマスルガ、アトハ稼ギ高拂
ヒデゴザイマスルノデ、懶ケレバ懶ケルダ
ケ賃銀ガ少クナル、斯ウ云フ建前デ、其ノ
點ハソレ程迄ニ痛切ニ考ヘテ居ラナイヤウ
デゴザイマス

○子爵梅園篤彦君 農業移民ノ不振ガ農業
收入ノ比較的少イト云フ點ニアルト致シマ
シタナラバ、其ノ收入増加ヲ圖ルト云フコ
トガ農業ヲ進歩サセル所ノ最モ近道デアリ、
有效デアルト云フコトニナルノハ申ス迄
モナイノデアリマスガ、此ノ收入増加ヲ或
程度以上出來ナイト云フコトニナリマシタ
ナラバ、之ヲ補フ方法ト致シマシテハ色々
アリマセウガ、農民ニ對シマシテ修養ト慰
安トヲ與ヘテ、且適切ノ助成ヲ爲スト云フ
コトニ歸スルデアラウト思フノデアリマス、
修養ニ依リマシテ農民精神ヲ養ヒ、農民ガ
民ノ本デアリ、大御寶デアル所以ヲ自覺シ、
之ヲ天ヨリ與ヘラレタ天職ナリト考ヘテ、
貴イ生業デアルト云フコトヲ悟ラセマスル
ト共ニ、其ノ慰安ニ依ッテ、一日ノ疲勞ヲ恢
復シ、明日ヘノ英氣ヲ養フコトヲ云フコトガ、
何ヨリモ有效必要デアルト信ズルノデアリ
マスガ、政府ニ於テハ農民ニ對シマシテ此
ノ修養ト慰安トニ付、テ特ニ何カ御考ニナッ

テ居リマセウカ、又其ノ助成方法ニ付テ御
説明ガ願ヒタイト思ヒマス

○政府委員(小河正儀君) 樺太ニ於ケル農

業ヲ振興セシムル途ハ、只今梅園委員カラ
申サレタ通りニ修養ト慰安ノ途ダト考ヘテ
居リマス、從ッテ去年カラ樺太農會ニ委嘱ヲ
致シマシテ、農民道場ヲ設置致シマシテ、
サウシテ此處ニ島内ノ農民ノ中デ最モシッ
カリシタ青年ヲ集メマシテ、修養道場の
訓練ヲ致シツ、アリマシテ、所謂農民道
ノ確立ト云フコトニ只今致シマシテ、第一
回ノ卒業生ヲ昨午出シテ、本年三月第二回
ノ卒業生ガ出ル豫定デゴザイマス、是ハ引
續イテヤリマシテ、非常ニ廻リ遠イコトノヤ
ウニ見エマスガ、結局農村ノ振興ノ最モ近イ確
實ナ途ハ斯様ナ農民道ノ確立ト云フコトニ
アルト考ヘマシテ、折角是ガ指導ニ力ヲ致
シテ居ル次第デゴザイマス、ソレカラ慰安
ノ設備ニ付キマシテ昨日モテヨット御答ヘ
申上ダタカト存ジ上ゲマスガ、今迄過去ノ
移民ノ分散ヲ致シマシタ理由、定著ヲ致シ
マセヌ、離農ヲ致シマシタ理由ノ或部分ハ
綜合的農業計畫、移民計畫ト云フモノデゴ
ザイマセヌノデ、唯此ノ場所ハ農業ヲスレ
バ物が出來ルト云フコトデアリマシタ結果
只今申シマシタ慰安ノ設備トカ、交通ノ不
便ト云フコトカラ離村致シマシタ者ガ相當
アルヤウニ考ヘラレマスノデ、其ノ後綜合
的ノ移民計畫ト云フコトニ致シマシテ、集
團的ノ開拓民ヲ入レルト云フコトニ致シマ
シテ、其處ニハ技術員モ常置致シマシテ、
指導ニ當ラシメマスルト共ニ集會所様ノモ
ノヲ設ケマシテ、其ノ共同事業、共同集會
所ニ於ケル或ハ活動寫眞デアリマスルトカ、
或ハ修養ノ講演デアリマスルトカ、各種ノ

コトニ依リマシテ、慰安ノ施設ヲシテ參ッテ
居リマス、恐ラク斯様ナ施設ガ充實致シマ
スルナラバ、今後ハ成績ガ好クナッテ來ルコ
トト實ハ考ヘテ居リマス、ソレカラ助成ノ
點デゴザイマスガ、只今申上ゲマシタヤウ
ナ技術員ナリ指導員ヲ置イテ居リマスト共
ニ、御承知ノヤウニ樺太ノ酸性土壌ヲ改良
致シマス爲ノ石灰ニ對シマシテハ、八割ノ
補助ヲ致シテ居リマス、ソレカラ肥料ニ付
キマシテモ、之ガ助成ヲ致シテ居リマスシ、
開墾ニ對シマシテモ、無論家屋建築ニ對シ
マシテモ、或ハ家畜ノ購入、農具ノ購入等
ニ對シマシテモ、一定率ノ助成ヲ致シテ居
リマス、唯樺太ニ於ケル農業ノ報酬ガ少イ
ト申シマスノハ、絶對的ノ數字デハゴザイ
マセヌデ、比較的ノ數字デゴザイマシテ、昨
今石炭業ナリ、或ハ濱ノ勞銀ナドガ非常ニ
昂騰致シマシタカラ、斯様ナモノニ比較致
シマシテ、勞銀ガ少イ、收入ガ少イト云フ
結果ニハ相成リマスルガ、先程申シマシタ
ヤウナ農家ノ一人ノ勞銀ガ一日二圓數十錢
ニナルト云フコトハ、内地ノ農村ニ比較致
シマス、恐ラク數倍ト云フ數字ニナルノ
ガラウト思ヒマスガ、非常ナ報酬ニ當ルコト
ニ相成リマスルノデ、農業自身ガ決シテ不利
デアル産業デハナイト思フノデアリマス

○子爵梅園篤彦君 「ソ」聯ト接觸シテ居ル
ト云フ點カラ考ヘマス、樺太移民ハ滿洲
移民ト共ニ同等ノ重要性ヲ保持ッテ居ルモ
ノデアルト考ヘルノデアリマス、從ッテ樺太
開拓移民ニ對シマシテモ、滿洲開拓移民ノ
獎勵條件ト、少クトモ同等以上ノ獎勵條件
ヲ以テ之ヲ保護獎勵スルト云フ必要ガアル
ト考ヘルノデアリマスガ、此ノ兩者ノ獎勵
條件ハドウ云フ風ニナッテ居リマスカ、其

ノ點ヲ御説明ヲ願ヒマス

○政府委員(小河正儀君) 細カイ數字ヲ兩

者比較致シマシタモノヲ申上ゲマス、樺
太ニ於ケル助成ハ、總額デ一戸當リ千二百
五十圓ト相成リマス、此ノ内譯ヲ申シマス
ト、移住費ノ補助ガ三百圓、家屋建築補助
ガ四百圓、種子ノ給與ガ五十九圓、石灰肥
料ノ給與ガ合計致シマシテ百三圓、ソレカ
ラ二町歩ダケ最初ニ官デ開墾ヲ致シテ渡シ
マシテ、入植後直チニ耕作ガ出來ルヤウニ
致スコトニ實行致シテ參ッテ居リマスノデ、
此ノ官營ノ開墾ガ三百八十八圓、合計デ千
二百五十圓ト云フ金額ニ相成リマス、ソレ
カラ滿洲ニ於キマシテハ、渡航費ノ補助ガ
大體一家二百四十圓、個人施設ノ補助ハ六
百圓、共同施設ノ補助ガ五十圓、組合事務
所建物及醫療施設ノ補助ガ百十圓、合計
一千圓ト相成リマスガ、此ノ外ニ樺太ニ於
キマシテハ共同作業場ノ建設、ソレカラ農
業指導者ノ建物、共同集會所ノ建物等ノ助
成ハ、直接國デ建テ利用セシメルコトニ
致シテ居リマスノデ、此ノ助成金ノ中ニ入ッ
テ居リマセヌノデ、見タダケデハ却テ樺太
ノ方ガ優遇サレテ居ル形ニ相成リマス、而
モ此ノ外ニ滿洲移民ハ土地ハ有償デ買取ラ
ナケレバ相成リマセヌ、唯資金ノ融通ノ道
ガゴザイマシテ、長期間賦デ分割拂ヲスル
コトニ相成ッテ居リマスガ、樺太廳ノ方ノ移
民ニ於キマシテハ、是ガ開墾ヲ成功ヲ致シ
マシタ際ハ無償デ讓與ヲスルコトニ相成ッ
テ居リマス、從ッテ其ノ點ニ於キマシテノ條
件ハ却テ宜イノデハナイカト思ヘルノデゴ
ザイマス

○子爵梅園篤彦君 只今ノ御説明ヲ伺ヒマ
シテ、滿洲移民ヨリモ樺太移民ノ方ガ却テ

宜イト云フコトヲバ具體的ニ御示戴キマシテ大變結構ヲ思ヒマス、モウ一點御伺致シマス、尙御提出ノ參考資料ニ依リマスルト、樺太ニ於ケル農家戸數及人口ハ、昭和十年ガ一萬一千六百二十八戸、五萬八千人トナツテ居リマシテ、其ノ最高ヲ示シテ居リマス、然ルニ昭和十四年ハ八千七百八戸デ、四萬六千五百一十一人トナツテ、減少ヲ示シテ居リマス、其ノ減少ノ原因ハ昨日御説明ガアリマシタノデ十分ニ諒承致シマシタガ、滿洲ノ開拓移民ト對照的ニ考ヘマス場合ニ、大體樺太開拓移民ハ幾ラ位ヲ送ル必要ガアルノデアリマスルカ、又開拓移民ニハ十町歩位ヲ與ヘルト云フコトニナツテ居リマスガ、其ノ必要量ダケノ移民ヲ送リマスル場合ニモ、矢張り一人當リ十町歩デ以テ十分デアアルノデアリマスルカ、是等ノ點ニ付テ御伺ヲ致シマス、尙之ヲ要スルニ樺太ニ於ケル食糧ノ自給ト、農民ノ定著トハ必須缺クベカラザルモノデアリマスルカ、地下資源、森林資源竝ニ農耕地ノ關係等ヲバ睨ミ合セマシテ、將來何萬戸ノ定著農業移民ヲ送ル必要ガアルカト云フヤウナ御計畫ハ、既ニ立ッテ居ルコトと思ヒマスルガ、念ノ爲ニ此ノ際樺太ノ移民計畫ニ付テ御説明ヲ煩ハシタイト思ヒマス

○政府委員(小河正儀君) 御答へ申上ゲマス、唯最後迄入レテ何萬戸ノ移民計畫ガ立ッテ居ルカト云フ御尋ノヤウデゴザイマシタガ、此ノ點ニ於キマシテハマダ全體ノ計畫ハ樹立サレテ居ラナイノデゴザイマスガ、唯今日土地ノ區分調査ノ結果ニ依リマス、大體農耕適地ガ三十數萬町歩アルト云フ調査ノ結果ニ相成ツテ居リマスルノデ、只今ノ計畫通りニ一戸當リ十町歩ノ耕地ヲ割當テ

ルト致シマスルコト、今後尙三萬戸ノ農家ハ十分入レ得ルコト考ヘテ居リマス、唯、只今計畫ヲ立テテ居リマスノハ、毎年二百五十戸ノ自作農家ヲ扶植致シマス計畫デゴザイマシテ、之ヲ十箇年繼續スル計畫ヲ實ハ立テテ居リマスルノデ、此ノ數カラ申シマスルト、十箇年間ニ二千五百戸ノ農家ヲ自作農トシテ定著セシメヨウト、斯ウ云フ計畫ニ相成ツテ居リマス、併シナガラ全體移民ヲ入レマシタ結果、其ノ生産物ニ依ッテ島民ノ食糧ヲドノ程度自給シ得ルカト云フ計算ノ下ニ立テマシタ計畫ハ、只今手許ニ持合セテ居リマセヌデゴザイマスガ、昨日モ申上ゲマシタヤウニ此ノ會社ノ計畫ニ依リマシテ、十四箇年後即チ此ノ計畫デ毎年千町歩ヅ、十箇年間、二年度カラ始メテ參リマシテ、愈、全部ノ豫定耕地ヲ開拓シ終ッテ後ニ於テ、全住民ノ食糧ノ大體ニ割程度ヲ補給シ得ル結果トナルト云フ計算ダケガ只今手許ニアル計算デゴザイマス

○子爵梅園篤彦君 只今ノ御答辯ニ依リマスルト、三萬戸迄ハ入レ得ルコトガ出來ルト云フヤウナ御話デアリマシテ、而シテ實際ノ御計畫トシテハ一年二百五十戸、之ヲ十箇年計畫トシテ、二千五百戸入レ得ルコト云フヤウニ伺ヒマシタガ、三萬戸迄入レ得ル所ニ二千五百戸ト云フコトニナリマスルト、甚ダ少イヤウナ考ガ致シマスルノデ、是ハ樺太移民ト云フコトハ此ノ「ソ」聯ト接觸シテ居ルコト云フ關係カラ、非常ニ重大ナ問題デアルト思ヒマスルノデ、今少シク之ヲ殖ス必要ハナイカト云フヤウニ考ヘルノデアリマス、要ハ此ノ樺太移民計畫ニ付テ確實ナ計畫ヲバ取急ギ樹立セラレムコトヲ希望致シテ置キマス

○政府委員(小河正儀君) 只今御尋ノ通り

○政府委員(伯爵兒玉秀雄君) 平塚君、何カ

○委員廣義君 是迄ノ御質問ノ模様ヲ私今

○平塚廣義君 是迄ノ御質問ノ模様ヲ私今

○政府委員(伯爵兒玉秀雄君) 平塚君、何カ

○委員廣義君 是迄ノ御質問ノ模様ヲ私今

○平塚廣義君 是迄ノ御質問ノ模様ヲ私今

○政府委員(伯爵兒玉秀雄君) 平塚君、何カ

○政府委員(伯爵兒玉秀雄君) 平塚君、何カ

○委員廣義君 是迄ノ御質問ノ模様ヲ私今

○平塚廣義君 是迄ノ御質問ノ模様ヲ私今

○政府委員(伯爵兒玉秀雄君) 平塚君、何カ

○政府委員(伯爵兒玉秀雄君) 平塚君、何カ

○委員廣義君 是迄ノ御質問ノ模様ヲ私今

○平塚廣義君 是迄ノ御質問ノ模様ヲ私今

○政府委員(伯爵兒玉秀雄君) 平塚君、何カ

○政府委員(伯爵兒玉秀雄君) 平塚君、何カ

○委員廣義君 是迄ノ御質問ノ模様ヲ私今

○平塚廣義君 是迄ノ御質問ノ模様ヲ私今

○政府委員(伯爵兒玉秀雄君) 平塚君、何カ

○政府委員(伯爵兒玉秀雄君) 平塚君、何カ

○委員廣義君 是迄ノ御質問ノ模様ヲ私今

○平塚廣義君 是迄ノ御質問ノ模様ヲ私今

○政府委員(伯爵兒玉秀雄君) 平塚君、何カ

○政府委員(伯爵兒玉秀雄君) 平塚君、何カ

○委員廣義君 是迄ノ御質問ノ模様ヲ私今

○平塚廣義君 是迄ノ御質問ノ模様ヲ私今

○政府委員(伯爵兒玉秀雄君) 平塚君、何カ

○政府委員(伯爵兒玉秀雄君) 平塚君、何カ

○委員廣義君 是迄ノ御質問ノ模様ヲ私今

○平塚廣義君 是迄ノ御質問ノ模様ヲ私今

○政府委員(伯爵兒玉秀雄君) 平塚君、何カ

○政府委員(伯爵兒玉秀雄君) 平塚君、何カ

○委員廣義君 是迄ノ御質問ノ模様ヲ私今

○平塚廣義君 是迄ノ御質問ノ模様ヲ私今

○政府委員(伯爵兒玉秀雄君) 平塚君、何カ

社ヲ傳リ立テ、行キ、又實際ニ於テハ樺太長官ガ責任ヲ持ッテ行クト云フコトニナラナケレバナラヌグラウト思ヒマスルカラ、其ノ長官ノマア權限ト云フト餘リ角立チマスコトニナリマスケレドモ、大臣トノ關係ニ於テ如何様ニナルモノデアリマセウカ、或ハ拓務省ノ内部ノ仕事デモアラウカト考ヘラレマスルケレドモ、念ノ爲ニ御差支ノナイ程度ニ御示ヲ願ヒタイト思ヒマス、尙今ノ同ジ趣旨ノ下ニ「社長及副社長ハ主務大臣之ヲ命ジ」云フコトガ書イテゴザイマス、ソコデモ是モ斯ウ云フ國策會社、今迄ノ前例カラ申シマシテモ、此ノ通りニナッテ居リマスルカラ、其ノ點ニ付キマシテハ私ガ異論ヲ申上ゲル譯デハナイゾデアリマス、唯兎ニ角本店ハ此ノ規則ニ依リマスルト云フト、豐原市ニ置クト云フコトニナッテ居リマスガ、支店等ハ矢張り政府ノ所在地デアリマスル東京、或ハ其ノ他ノ地方ニ置ク、或ハ少クトモ事務所ノヤウナモノヲ置クト云フヤウナコトニナリハセスカト思ヒマス、處デ從來ノ國策會社ノ是等ノ責任者ノ模様ヲ見マスルト云フト、ドウモ現地ニ始終足ヲ留メテ専心ニ自分ノ仕事ヲ遂行シテ國策ニ副フト云フヤウナ點ニ付キマシテハ、如何デアアラウカト考ヘラル、ヤウナコトモナキニシモアラズト思フゾデアリマス、詰リ大臣ガ任命スルト云フコトニナッテ居リマスルデ、政府ノ所在地ノ方ニ居リマスル時間ガ長クシテ、現地ニ參リ、本當ニ獻身ノニヤルト云フヤウナ時間ガ少イト云フコトハ、ドウモアリ勝チデヤナイカト思ヒス、是デハ此ノ開發會社ガ折角成立チマシテモ、本當ニ其ノ目的ヲ達スルニハ、ドウシテモ幹部ガ獻身ノニヤルコトヲ要スルダラ

ウト考ヘマスルノデ、ソレ等ノ點ニ關シマシテモ立入ッテ申上ゲマスレバ、ソレ等ノ人選等ニ關シマシテモ、相當ノ御考慮ヲ御拂ヒニナルコトガ固ヨリデアアラウト思ヒマスルガ、ソレ等ノ點ニ付キマシテドウ云フ考デアルト云フヤウナコトガ御伺ヒ出來マスレバ幸ト思ヒマス、斯様ナコトヲ申上ゲマスルノハ、私モ外地ニ多年勤務致シマシタノデ、今申上ゲマシタ點ニ付テ平生考ヘサセラレテ居リマスルコトモゴザイマスルノデ、念ノ爲ニ御伺ヲ致シテ置キタイト、斯ウ考ヘルノデアリマス、餘リ立入ッタコトヲ申上ゲマシタガ、御差支ノナイ限り御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

○政府委員(北島謙次郎君) 只今平塚サンノ御尋ニ對シテ御答ヘ致シタイト存ジマス、第一ニ此ノ會社ト監督官廳デアリマスル拓務省及樺太廳トノ關係ニ於キマシテ、其ノ三者ガ圓滿ニ行カケレバ會社ノ運行ガウマク行カナイト云フ御話ハ、誠ニ御尤モデゴザイマシテ、我々ト致シマシテモ特ニ今後十分慎シマナケレバナライ點デアルト深く考ヘテ居ル次第デゴザイマス、從來デモ御承知ノヤウニ他ノ特殊會社ノ例カラ考ヘマシテ、ドウカスルト役所側ノ方デ餘リニ繁文縟禮ノコトヲ申シマシタリ、或ハ又見當違ヒノコトヲヤカマシク言ッタリ致シマシテ、會社ノ理事者トシテ非常ニ業務ノ執行上困ルヤウナ場合モ往々ニシテアッタラウト思ヒマス、役所側ト致シマシテハ、何分矢張り大臣ガ監督スルト申シマシテモ、大臣一人デ監督スルト云フ譯ニモ參リマセヌシ、矢張り色々ノ手ヲ通ジタリ、或ハ又色々ノ人ニ會社トシテモ話ヲシナケレバナライ立場ニモ立チマスルシ、アチラカラ色々註文ヲ

付ケラレタリ、或ハ掣肘ヲ受ケタリシマシテ、會社理事者トシテモ隨分困ル場合ガ、是ハ恐ラク過去ニ於テモ、或ハ又將來ニ於テモアリ勝チノコトダト考ヘルノデゴザイマス、此ノ點ニ付キマシテハ、十分監督官廳タル拓務省及樺太廳ニ於テ、其ノ邊ハ大臣、長官ダケデナク、下、下僚ノ方面ニ其ノ趣旨ヲ徹底シテ、會社ノ業務ノ運行ノ圓滿ナル遂行ヲ阻害シナイヤウニ努メナケレバナラヌト云フコトハ、申ス迄モナイコトデアリマス、最近官僚獨善ダトカ、マア色々人ニ對シテモ非難モゴザイマスルガ、我ト致シマシテモ其ノ點ハ深く慎シマナケレバナライ點ダト思ヒマスノデ、最近ノ所謂政府ノ經濟關係ニ對スル大體ノ方針ト致シマシテハ、民間ノサウ云フ理事者ニ對シテ政府トシテ或程度ノ信賴ヲシ、信賴ヲシタ以上ハサウ餘リ干涉ガマシイコトヲシタクナイト云フノガ、所謂經濟ノ新體制ニ對スル政府ノ方針ダト私ハ承知致シテ居リマスガ、今後モ勿論其ノ趣旨デヤッテ參ラナケレバナラヌ、唯從來デモ恐ラク其ノ趣旨ノ抽象論ト致シマシテハ、誰モ異存ハナカラウト思ヒマスガ、實際問題ト致シマシテハ、色々其ノ間必ズシモ圓滑ニ行カナカッタ云フ例ガ往々ニシテアルヤウデゴザイマスカラ、是ハ果々モ注意致ス積リデゴザイマス、ソレデ御尋ノ第一點ノ、主務大臣ガ此ノ會社ヲ一般ノ監督スルト書イテアッテ、同時ニ第二十七條デ、主務大臣ノ職權ノ一部ヲ樺太廳長官ニ委任スルト云フ規定ガアルガ、具體的ニドウ云フコトヲ委任スルカド云フ御尋ノヤウデゴザイマス、是ハ大體其ノ先例ト致シマシテハ、南洋拓殖株式會社ニ丁度之ト同ジヤウナ規定ガゴザイマシテ、

主務大臣ガ監督權ハ持ッテ居ルガ、其ノ職權ノ一部ヲ南洋廳長官ニ委任スルコトガ出來ル、之ト同ジヤウナ規定ガゴザイマス、其ノ例ヲ採ッテ次第デゴザイマス、ソレデ實際問題トシテ、ソレデハドウ云フモノヲ委任スルカト云フ點ニナリマスルト云フト、全然樺太廳長官ニ委セ切リニスル事項ト云フコトハ、南洋拓殖ノ例カラ申シマシテモ、サウ大シテ特ニ申上ゲル程ノ大キナ項目モゴザイマセヌ、併シ總テ主務大臣ノ認可、許可、サウ云フモノヲ要スル事項ニ付キマシテハ、南洋ノ場合ニ於キマシテハ南洋廳長官ノ手ヲ通ジテ、サウシテ南洋廳長官デ適當デアルト認メタモノニ限ッテ、拓務省ノ方ニ提出スルト云フ風ニシテ連絡ヲ執ッテ居リマス、ソレデ意見ガアレバ勿論南洋廳長官カラ主務大臣ノ方ニ意見ヲ具申スル次第デゴザイマスルガ、樺太廳ノ場合モ矢張り大體同ジヤウナ建前デ行カケレバナライカト考ヘテ居リマス、ドウ云フ事項ヲ今下ノ範圍デ專決ニ委任スルカト云フ事項ハ、只今ハッキリ此處デ申上ゲル程「コンクリート」ノモノハ出來デ居リマセヌガ、大體ノ氣持ト致シマシテハ、ソナヤウナ氣持デ考ヘ居ル譯デゴザイマス、ソレカラ第二ニ監督官ヲ何處カラ任命スルカト云フ御尋ノ點デゴザイマスルガ、是モ矢張り南洋拓殖或ハ東拓ニ致シマシテモ、臺灣拓殖ニ致シマシテモサウ云フ例ガゴザイマスガ、從來ノ例カラ申シマシテ今度ノ場合モ矢張り本省カラ誰カ、是ハ從來局長ヲ監督官ニ致シタコトモゴザイマスルシ、主務課長ヲ監督官ニ致シタコトモゴザイマス、現在デハ寧ロ課長ヲ監督官ニ致シテ居リマスルノデ樺太ノ場合ニ於キマシテモ矢張り同ジヤウ

主務大臣ガ監督權ハ持ッテ居ルガ、其ノ職權ノ一部ヲ南洋廳長官ニ委任スルコトガ出來ル、之ト同ジヤウナ規定ガゴザイマス、其ノ例ヲ採ッテ次第デゴザイマス、ソレデ實際問題トシテ、ソレデハドウ云フモノヲ委任スルカト云フ點ニナリマスルト云フト、全然樺太廳長官ニ委セ切リニスル事項ト云フコトハ、南洋拓殖ノ例カラ申シマシテモ、サウ大シテ特ニ申上ゲル程ノ大キナ項目モゴザイマセヌ、併シ總テ主務大臣ノ認可、許可、サウ云フモノヲ要スル事項ニ付キマシテハ、南洋ノ場合ニ於キマシテハ南洋廳長官ノ手ヲ通ジテ、サウシテ南洋廳長官デ適當デアルト認メタモノニ限ッテ、拓務省ノ方ニ提出スルト云フ風ニシテ連絡ヲ執ッテ居リマス、ソレデ意見ガアレバ勿論南洋廳長官カラ主務大臣ノ方ニ意見ヲ具申スル次第デゴザイマスルガ、樺太廳ノ場合モ矢張り大體同ジヤウナ建前デ行カケレバナライカト考ヘテ居リマス、ドウ云フ事項ヲ今下ノ範圍デ專決ニ委任スルカト云フ事項ハ、只今ハッキリ此處デ申上ゲル程「コンクリート」ノモノハ出來デ居リマセヌガ、大體ノ氣持ト致シマシテハ、ソナヤウナ氣持デ考ヘ居ル譯デゴザイマス、ソレカラ第二ニ監督官ヲ何處カラ任命スルカト云フ御尋ノ點デゴザイマスルガ、是モ矢張り南洋拓殖或ハ東拓ニ致シマシテモ、臺灣拓殖ニ致シマシテモサウ云フ例ガゴザイマスガ、從來ノ例カラ申シマシテ今度ノ場合モ矢張り本省カラ誰カ、是ハ從來局長ヲ監督官ニ致シタコトモゴザイマスルシ、主務課長ヲ監督官ニ致シタコトモゴザイマス、現在デハ寧ロ課長ヲ監督官ニ致シテ居リマスルノデ樺太ノ場合ニ於キマシテモ矢張り同ジヤウ

ナコトニナリハシナイカ、ソレカラ樺太廳
部内カラ、南洋拓殖ノ例モ同様デゴザイ
マスルシ、恐ラク例ヘバ之ヲ監督スル拓
殖部ノ部長ヲ監督官ニスルト云フヤウナ
コトニ相成リハシナイカ、是モ今ハキリ
必ズサウ致シマス云フコトヲ明言スル程
マダ確定ハ致シテ居リマセヌガ、大體本
省カラ樺太廳部内ノ部長「クラス」ノ者ヲ一
人任命スルト云フコトニ、外ノ例カラ見テ
サウ云フコトニナリハシナイカト左様ニ考
ヘテ居リマス、ソレカラ第三ハ、是ハ御尋
デアツカドウカチヨットハキリ致シマセ
ヌデシタガ、他ノ特殊會社ノ例ヲ見ルト云
フト、本店所在地ニハ社長其ノ他ノ理事者
ガ餘リ居ナイデ、動モスルト本店デナイ
東京方面ニ多ク來テ居テ、本店ノ所在地
ノ方ヲ留守ニスル虞ガアル、今度ノ會
社モサウ云フコトニナリハシナイカト云
フヤウナ意味ノ御質問デアツカト思ヒマ
スガ、是ハ拓務省ノ關係致シテ居リマス國
策會社ト致シマシテハ、東拓ノ場合ニ於キ
マシテハ現在本店ガ矢張り東京ニゴザイマ
シテ、而モ業務ノ範圍ガ御承知ノヤウニ朝
鮮カラ滿洲、北支、現在デハ南洋、樺太迄
モ手が伸びテ居リマス、ドレガ中心カト云
フコトガハキリ致シマセヌシ、ソレカラ又
會社ノ理事者トシテ一番大キナ仕事ハ、矢
張り資金關係ノ仕事ガ社長トシテノ重大
ナル仕事デモゴザイマスルシ、旁、事實上
社ノ幹部ハ東京ニ在住シテ居ル次第アリ
マス、是ハ平塚サンノ仰セノ通りニ本店ノ
所在地ニ事實上役員モ滞在スルト云フ恰好
ニナツテ居リマス、他ノ特殊會社ニ付キマシ
テハ必ズシモサウデモナイヤウデゴザイマ
スガ、是ハ例ヘバ臺灣拓殖ニシマシテモ、

南洋拓殖ニ致シマシテモ、本店ノ法律上ノ
所在地ハ臺灣ダトカ、或ハ南洋ダトカト云
フコトニ相成ツテ居リマスルガ、ドウシテモ
社長等ノ理事者ト致シマシテ最モ重點ヲ置カ
ナケレバナラス點ハ、現地ノ事業ガ勿論主
デハゴザイマスガ、是モ或程度ノ見透シガ
付キマシタ場合ニ於キマシテ、ソレヲ實行
ニ移スト云フ場合ニナリマス、從來デモ
矢張りドウシテモ色々交渉ノ相手、ソレハ
政府デアリマスルカ、或ハ民間ノ當業者
同志ノ關係ニ於テモ、ドウシテモ現地デハ
ナカノ問題ガ片付カナイ場合ガ多イ、從ッ
テ社長ト致シマシテハ結局東京ニ居ナケレ
バ用ガ辨ジナイト云フ場合ガ非常ニ多クハ
ナイカト思フノデアリマス、寧ロサウ云フ
場合ガ多イノデハナイカト云フヤウニ大體
カラ見テ感ゼラレル譯デアリマス、從ヒマ
シテ必ズシモ現地ニ居ルノワイヤガルト云
フ譯デモゴザイマセヌデ、實際上東京ニ居
ナケレバ話相手、自分ノ交渉相手ガ東京デ
ナケレバ居リマセヌシ、又役所側ニ致シマ
シテモ、ドウシテモ矢張り中央ノ、中央政
府ト折衝シナケレバウマク話ガイカスト云
フヤウナ關係上、法律上ノ所在地如何ニ拘
ラズ、實際上矢張り東京ニ多クハ滞在スル
ト云フコトニナツテ來ルダラウト私ハ想像
スルノデアリマス、殊ニ最近ノヤウニ所謂
統制經濟ノ關係、又物資ノ需給關係、或ハ
資金關係、サウ云フモノガ最近一層會社ノ
理事者ト致シマシテ、サウ云フ方面ノ他ト
ノ交渉、殊ニ政府其ノ外ノ交渉ガ非常ニ多
クナリマシタノデ、會社ノ理事者モドウシ
テモ矢張り政治ノ中心、經濟ノ中心デア
ル東京ニ居ナケレバ用ガ辨ジナイト云フ場合
ガ益、其ノ度ヲ加ヘタノデハナカラウカ、斯

様ニ思ハレルノデアリマス、ソレデ現在出
來テ居リマス國策會社ノ理事者デモ、矢張
リドウカスルト東京ニ多ク滞在スル、是
ハ結果ニ於テ已ムヲ得ズサウナツテ居ルノ
デハナカラウカ、斯様ニ考ヘマス、今回ノ
會社ノ場合ニ於キマシテモ、矢張り本店ハ
樺太ノ豐原ト云フコトニナツテ居リマスケ
レドモ、是ハ社長其ノ他ノ重役ガ樺太ノ事態、
樺太ノ實際ノ色々ノ仕事ニ付テ十分ノ認識
ヲ深メルダケノ、樺太ニ關スル知識ト經驗
トヲ備ヘル爲ニ向フヲ十分知ルト云フコト
ハ勿論必要デアリマスガ、愈之ヲ實行ニ移
ス場合ニ於キマシテハ、ドウシテモ矢張
リ政府其ノ外トノ交渉ニ致シマシテモ、殊
ニ最近ノヤウナ業務ノ關係、物資ノ關係、
資金ノ關係、非常ニ複雑多岐ニ益、ナルヤウ
ナ情勢ノ下ニ於キマシテハ、ドウシテモ矢
張り現地ノ樺太デハ用ガ辨ジナイト、勢ヒ
中央、此ノ東京方面ニサウ云フモノヲ處理
スル爲ニ出テ來ルト云フヤウナコトハ、是
ハ已ムヲ得ナイノデハナイカ、斯様ニ想像
デゴザイマスガ、率直ノ所サウ云フ必要ニ
迫ラレハシナイカ、斯様ニ考ヘマス、ソレ
ガ宜イカドウカト云フ問題モゴザイマスル
ガ、恐ラク是ハドウ云フ人ガ役員ニナリマ
セウトモ、仕事ノ性質上又最近ノ經濟情勢、
サウ云フ觀點カラ、矢張り或程度樺太現地
ノ事情ヲ認識シタ後ニ於キマシテ、實際上
ノ仕事ヲ進メル場合ニ於キマシテハ、矢張
リ主トシテ東京ニ往復スベキ用務モ相當ニ
滞在スル期間ヨリモ、東京ニ滞在スル期
間ノ方ガ多クナルト云フヤウナコトモ、恐
ラクアリ得ルコトカト考ヘテ居リマス、是
ハマア愈、其ノ場ニナツテ見ナイト分リマセ

スノデアリマスルガ、過去ノ様子、又最近
ノ情勢カラ考ヘマシテ、率直ニ恐ラクサウ
云フコトニナルダラウト云フ私ノ觀測ヲ申
上ゲタ次第デアリマス、結局役員ノ人選ノ
問題ニモ關聯致シマスガ、其ノ點ハ恐ラク
如何様ナ人選ガアリマシテモ、結局サウ云
フ事態ニ立チ至リハシナイカト、サウ云フ
ヤウニ考ヘル次第デアリマス
○平塚廣義君 只今政府委員、次官ノ御説
明ハ私ト致シマシテハ十分了承致シテ居ル
點デゴザイマシテ、唯私ハ前回ニ有賀委員
ノ御述ニナリマシタ點ニ付キマシテ誠ニ同
感デゴザイマスルノデ、會社ヲ指導シテサ
ウシテ樺太長官ト拓務省ト一體ニナツテ、法
律上ノ權限云々ト云フヤウナコトハ別問題
ト致シマシテモ、此ノ三者ガ一體トナツテ、
サウシテ圓滿ニ事業ノ遂行ヲ見ルヤウニ致
シタイト云フ希望ニ外ナラスノデアリマス、
唯往々ニシテ場合ニ依リマスルト、現地ノ
長官ニハ殆ド幹部ガ相談モセズ、十分ナ諒
解モ或ハ連絡モオシニ色々ナ風ナ事ガ運シ
デハ此ノ會社ノ爲ニ如何デアラウカト考ヘ
マス、ソレ等ノ點ヲ申上ゲテ御質問ヲ致シ
タニ過ギナイノデアリマス、只今次官ノ御
説明モ誠ニ御尤モデアリマス、唯私ノ質問
致シマシタ意ノ存スル處モ御諒承ヲ願ヒマ
シテ、此ノ案ガ成立シタ上ニ於テ、其ノ執
行ノ上ニ於テ遺憾ナキヲ期セラレタイト云
フコトヲ希望スルニ止メタイト思フノデア
リマス、其ノ外ニハ只今質問致スコトハアリ
マセヌ、是デ打切りマス
○子爵梅園篤彦君 本案ヲ見マスルト、社
長、副社長以下會社ノ役員ノ選任方法ニ付
キマシテハ並ミ／＼ナラス御苦心ノ跡ヲ見
マスルノデ、從ッテ設立委員ニ付テモ安心ヲ

致シテ居リマスノデ、決シテ疑ッテ御尋ヲ申上グル次第デハアリマセヌガ、本法ヲ見マスト第三十一條ニ主務大臣ハ設立委員ヲ命ジ樺太開發株式會社ノ設立ニ關スル事務ヲ處理セシムトアリ、第三十二條以下ニ設立委員ノ職務目的ニ付テ規定シテ居リマスガ、申ス迄モナク設立委員ハ會社ノ産ミノ親トナルベキモノデアリマシテ、非常ナ重要ナ役割ヲスルモノデアリマス、又其ノ責任ハ非常ニ重イモノデアリマス、就キマシテハ此ノ設立委員ハドウ云フ人ヲ以テ組織サレルノデアリマスルカ、設立委員トナルベキ額ハドウ云フ人ニ依ッテ組織サレルノデアリマスルカ、其ノ點ヲ伺ヒタイト思ヒマス

○政府委員(北島謙次郎君) 此ノ會社ノ設立委員モ、今マダ具體的ニドウ云フ人ト云フ的確ノ豫定ハ致シテ居リマセヌノデ、具體的ニ御説明スルハ多少困難ヲ感ジマスガ、是亦矢張り拓務省ト致シマシテモ色々先例モアリマス、例ヘバ最近出來マシタ臺灣拓殖或ハ南洋拓殖ノ例カラ見マシテモ、大體ハ財界、殊ニ金融方面ノ經驗者、ソレカラ役所側カラ申シマスルコト云フト、拓務省、樺太廳ハ勿論デアリマスガ、其ノ外ニ大藏省ノ人ダトカ、サウ云フ關係ノ各省、ソレカラ貴族兩院ノ方モ從來ノ例カラ見テ多少入レルト云フコトニ相成ルダラウト思ヒマス、臺灣拓殖、南洋拓殖ノ額觸ヲ御覽下サレバ、恐ラク大體ノ見透シハ付クコトデアラウト思ヒマスガ、此處ニ一々名前ヲ申上グルノモドウカト思ヒマスカラ、ソレダケハ差控ヘタイト思ヒマスガ、設立委員長其ノ外ニ付キマシテモ、從來ノ例ニ則ッテ人選ヲ致スト云フコトニナルト考ヘテ居

リマス

○秋田三三君 私ハ昨日三浦委員カラ御質問ニナリマシタ本會社ノ事業上、農業ニ關スルコトハ、樺太ニ取ッテハ餘リ急ガナイコトデヤナイカ、此ノ際餘リ多クヤルヨリハ重點主義デ、石炭又ハ山林トカ云フ方面ノ事業ニ主力ヲ注イデヤッタドウカト云フ御説モ御尤モノヤウニ感ジタノデアリマス、樺太長官カラノ御話ヲ聽キマスト、是非農業モヤリタイ、食糧ニ關シテモ切メテ現在要ル食糧ノ二割デモ之ニ依ッテ補給ガ出來レバ、其ノ二割ト云フモノハ非常ニ有效デアルカラ、折角石炭其ノ他ノ利益ノアル事業ヲヤル際ニ、是モ是非ヤッテ置キタイト云フ御話モアリマシタ、何カ長官ガサウ御考ニナルニ付テハ、統治上何カ御考ガアルデアリマセウカ、一應一般人ノ考ヘル所ニ依レバ、樺太ノヤウナ土地ハ氣候其ノ他農業ニ餘リ條件ガ恵マレナイヤウニ思ッテ居リマスガ、尤モ昨日來ノ色々ノ御話ヲ聽キマスト、米作ハ恵マレテ居ナイケレドモ、其ノ他ノ條件ハ必ズシモ惡クナイト云フコトデアリマスケレドモ、其ノ他此ノ會社ガヤル木材トカ、或ハ石炭トカノ開發ノ事業ニ較ベマスト云フト、マア缺點ニナルト云フコトハ明カニナッテ居ルヤウデアリマスシ、二割位ノモノデアレバ、島民ガ需要シテ居ル位ノモノハ外ノ土地カラ容易ニ持ッテ行ケルモノデナイカ、ソレヨリモ會社ノ安全性カラシテモ、サウ云フヤウナ方面ニ重點ヲ置カレテハドウカト云フヤウナ考モアルノデアリマスト、此ノ點ニ付テ農業ヲ特ニヤラナケレバナラスト云フ點ヲ一ツ御説明願ヒタイト思ヒマス

○政府委員(小河正儀君) 御答ヲ申上ゲマス、樺太ハ御承知ノヤウニ北ニ偏シテ、非常ニ溫度ガ足りナイ所デゴザイマスシ、又周圍ノ海峽ノ影響ヲ受ケマシテ、日照リガ割合ニ少イ所デアリマスノデ、光ト熱トヲ澤山要スル作物、言葉ヲ換ヘテ申シマストト、秋作物ニ於キマシテハ樺太ニ於テ之ヲ作ルト云フコトニハ非常ナ無理ガゴザイマスルガ、夏作物ヲ作リマスコトハ、今迄ノ經驗ニ依リマシテサウ困難ハナイノデゴザイマス、而モ今迄ノ成績ニ依リマスト小麦トカ、燕麥トカ、豆類トカ、馬鈴薯トカ、或ハ「ビート」トカ、牧草トカ云フモノノ生産ハ必ズシモ他ノ地方ニ負ケテ居ルヤウニハ思ハレヌデゴザイマスルガ、唯内地ノヤウニ二毛作ガ出來ルトカ何トカ云フコトハ出來マセヌデ、一年一作ニ甘シナケレバ相成ラヌノデゴザイマスルガ、是トテモ東北及北海道地方ノ農業ト同様ナル條件ノ下ニアルノデゴザイマス、サウシテ樺太ヲ將來開發シテ行キマスル爲ニハ、ドウシテモ農業生活ヲ殖サナケレバ相成ラヌノデ、樺太ノ昨年ノ米ハ四十萬石ヲ移入致シマシテ、其ノ外麥八萬石ヲ移入致シタノデゴザイマスルガ、昨年ハ非常ニ食糧品ニ窮屈ヲ感ジマシテ、旅行者ニ對シマシテハ旅館デハ穀類ヲ一切出サナイ、麵類ダケデ我慢ラシテ戴イテ居ッタ、各家庭ニ於キマシテモ一日一人二合三勺ノ通帳制ヲ實施致シマシタケレドモ、是ダケノ數量ガ米ノミデハゴザイマセヌデ、麥ヲ混ぜマシテモ尙供給スルコトガ出來マセヌノデ、大體其ノ七割程度ノ給與ヲ致シタト云フ實績デゴザイマス、本年モ只今越年ノ米ハ入レテ居リマスルガ端境迄ノ食糧ガ如何ニナルカト云フコトヲ折

角心配ヲ致シテ居ル所デゴザイマシテ、内地カラ之ヲ戴キタイト思ッテ、折角苦勞ハ致シテ居リマスルモノノ、ナカノ思フヤウニ之ヲ入レルト云フコトガ困難ナ狀態デアリマス、其ノ外家畜ノ飼料デアリマスル所ノ缺トカ糠、斯様ナモノモナカノ入ッテ參ラナイ實情ニアリマス、更ニ冬期間ニ於ケル最モ主要ナル運搬具デアリマスル馬ノ飼料デアル馬糧ノ燕麥、最モ以前ハ北海道アタリカラ相當數量移入シ得タノデアリマスルガ、今日ニ於テモ既ニ此ノ供給ガ足りナイノデ、非常ニ困難ヲ來シテ居ルト云フ實情デゴザイマス、何トカシテ斯様ナルモノヲ島内ニ於テ少シデモ澤山ニ供給スルト云フコトガ、今日我が國何レノ地點ニ於キマシテモ、最モ必要ナコトデアラウト思ッテ居リマス、從ッテ左様ナル意味ヲ以チマシテ農林當局ニ於キマシテモ、片一方ニ開拓營團法案デスカ、ト云フモノヲ出シテ國內ノ水田ノミナラズ、畑作ノ開墾モ獎勵シテ、雜穀其ノ他ヲ生産スルコトモ圖ラウトシテ居ル次第デアリマシテ、樺太モ其ノ帝國ノ一翼ト致シマシテ、是非樺太デ出來ナイモノハ已ムヲ得マセヌガ、出來ルモノハ之ヲ生産ヲシテ行クト云フコトニ努ムベキコトガ、樺太トシテ負ハサレタ責務デアルト考ヘテ居ルノデゴザイマス、尙我が國ノ農業生産ハ割合ニマダ自給シ易イノデゴザイマスルガ、所謂畜産製品、肉類及乳製品等ニ參リマスルコト、之ガ補給ト云フコトハナカノ骨ガ折レルノデゴザイマス、此ノ樺太ノ今度ノ農業經營ノ中ニモ、御承知ノヤウニ北地ノ農業ト致シマシテ、多數ノ家畜ヲ入レル農業様式ヲ採リ入レテアリマスルノデ、將來ハ此ノ方面カラ畜產品ノ

生産、即ち肉及乳製品等ノ生産ヲモ圖リタ
イト考ヘテ居ルノデゴザイマス、樺太ノ實
情ハ、現在ハ肉類モ内地カラ移入ヲ致シテ
居リマス、之ヲ内地カラ移入致シテ居リマ
スル肉類ヲ、移入シナクテ済ムヤウニスル
バカリデナク、更ニ肉ノ供給源ノ地帯トナ
ルベキ運命ヲ持ッテ居ル地方デアルト思フ
ノデゴザイマス、左様ナ意味ヲ以チマシテ、
是非此ノ農業開發ヲ行キタイ、是ハ決
シテ全體デ算盤ニ合ハナイ仕事デハゴザイ
マセヌガ、當初一農園カラ申シマス、三
年間ハ赤字ニナル、四年後ハ多少ノ利益ヲ
上ゲテ行ク計算ニ相成ッテ居リマシテ、先
見込ハアルノデアリマスルガ、開墾初年度、
次年度、三年度ト云フモノハ投下資本ニ
對スル收益ガ、マダ畑ガ十分ニ能力ヲ上ゲ
マセヌ結果、利益ヲ上ゲルニ至ラナイト云
フノデゴザイマシテ、結局ハ此ノ農産ノ方
モ利益ヲ上ゲテ行ク計算ト相成ッテ居リマ
ス、サウ云フヤウナ意味デ、此ノ農業モ是
非此ノ會社デヤッテ行キタイ、斯様ニ考ヘテ
計畫ヲ致シテ居リマス、又統治上ノ點カラ
參リマスルト、此ノ點ハ顧慮スルダケノ必要
ハナイカモ知レマセヌガ、多年樺太ノ島ニ住
ンデ居リマスル島民ノ中ニハ、多少僻シ
考ヲ持ッテ居ル者ガゴザイマシテ、樺太カラ
最初ハ海ノモノ、鯨、鮭、鱒ヲ獲レルダケ
掠奪シテ、獲ッテ持ッテ行ク、其ノ次ニハ山
ニ生エテ居ル木ヲ無闇矢鱈ニ持ッテ行ク、
今度ハ又樺太ノ地下ニ埋藏シテ居ル石炭ダ
ケヲ掘ッテ取ッテ行クノカ、斯ウ云フヤウナ
多少僻シ考ヲ持ッテ居ル者ガナイデモナイノデ
ゴザイマシテ、只今迄此ノ會社計畫ト云フ
モノガ計畫サレマシテ二十數年ニ相成リマ
スルガ、其ノ間ノ計畫ノ概要ト申シマシテ

ハ、此ノ農業部門ヲモット廣ク大キク採リ
入レタ計畫ガ、常ニ計畫サレテ今日迄參ッ
ノデゴザイマス、併シナガラ三浦サンカラ
モ、或ハ佐藤サンカラモ色々御話ノアリマ
シタヤウナ點モ、顧慮シナイノデハナイノ
デゴザイマシテ、左様ナル意味ヲ以チマシ
テ、此ノ農業部門ノ計畫ヲ出來得ル限り小
サク壓縮ヲ致シマシテ、今回ノ案ハ提案ヲ
致シタ次第デゴザイマス、之ニ依リマシテ
此ノ仕事ハ將來トモ參リマスルシ、又此ノ
農業ガアルト云フコトニ於テ、島民モ會社
計畫ト云フモノニ多大ノ期待ヲモ掛ケテ居
ルヤウナ次第デアリマス、或ハ取り留メモ
ナイコトヲ申上ゲマシテ、御分リニクカッ
カトモ思ヒマスルガ、大要右様ノ次第デゴ
ザイマス
○秋田三一君 從來樺太島民ノ方ガコボシ
テ居ラル、ト云フコトハチヨット意外デア
リマスガ、併シナガラ事實トスレバ誠ニ土
地ヲ愛スルト云フカ、其ノ現在住マッテ居
ラル、所ニ愛著心ヲ持ッテノ結果、サウ云
フヤウナ農業ヲ希望セラル、コトダト思
フノデアリマス、私昨年樺太ヲズット廻ッ
見タ時ニ、一番目ニ入ッテチヨットシタコト
ヲ感ジタノデスガ、アレダケノ寒イ所ニ拘
ラズ、皆住宅ガ「バラック」式デアリマシテ、
永住的ナ構ヘヲシテ居ル家ガ極メテ少イヤ
ウニ思ッタ、段々聞イテ見マス、ト皆一時ニ
アスコヘ行ッテ稼イデ、儲ケテ内地ヘ歸ル
ト云フヤウナ簡單ナル、儲ケダケ取ッテ行
クト云フヤウナ工合デ、其ノ土地ニ親シム
氣持ガ少イヤウナ氣ガシテ、何ダカ淋シイ
ヤウナ氣持ガシタノデアリマス、今御
話ノ如クデアレバ無論餘程頼モシク思フ
ノデアリマス、現在アスコニ住マッテ居ル人

人ノサウシタ永住的ノ氣持デ考ヘラレル人
ハ、ドノ位ノ割合ニナッテ居リマセウカ、所
謂出稼ノ者トソレカラ土著ト云フ割合、又
全體ニ於ケル島民ノ其ノ土地ニ對スル感情
ト云ヒマス、其ノ邊ニ對シテ長官ノ御觀
察ヲモウ一度承リタイ
○政府委員(小河正儀君) 此ノ數字ダケハ
チヨット速記ヲ……
○委員長(伯爵兒玉秀雄君) 速記ヲ止メテ
……
○委員長(伯爵兒玉秀雄君) 速記ヲ始メテ
……
○政府委員(小河正儀君) 十月一日ト云フ
時期ハ出稼ノ割合少イ時期デゴザイマス、
何故カト申シマスルト夏ノ濱ノ人足、ソレ
カラ漁業ノ出稼人、ソレカラ土木建築ノ方
ノ労働者ト云フ者ガ大體用事ガ済ミマシテ
大半歸ッテ後デゴザイマシテ、冬山ノ造林ノ
人夫ガマダ入ッテ參リマセヌ時期デゴザイ
マス、從ッテ割合ニ少イ時期デアラウト思ヒ
マスルガ、大體推定シテ見マスルト、其ノ
中デ約三萬人位ガ出稼ノ者デハナイカト
思ッテ居リマス、アトハ大體定著ヲ致シテ居
ル者デハナイカト思ヒマス、一年中デ最モ
出稼ノ労働者ノ多イ時期ハ、大體十萬足ラ
ズト云フ推定ト相成ッテ居リマス、從ッテ其
ノ時期ニハ相當ニ多數ノ者ガ參リマスルガ、
是トモ出來得ベクンバ樺太ニ定住サセタ
イト、斯様ニ考ヘテ居リマス、即チ只今一
番困ッテ居リマスノハ、解人夫其ノ他ガ夏ダ
ケ參リマシテ冬ハ歸リマス爲ニ、春先ノ作
業及ビ秋遅イ作業ニナリマス、勞力不足ノ
爲ニ荷揚ダケ十分出來ナイデ困ッテ居ル、斯
様ナ連中ハ家族ヲ連レテ來テ住マフ住宅ノ

設備ヲシテヤレバ、コチラニ定住スルト云
フコトハサウムツカシイコトデハナイノデ、
解業ノ組合デハ近ク左様ナ設備ヲシテ、出
稼デアル者ヲ定住ノ人ニシタイト云フコト
モ考ヘテ居リマス、是ハ誠ニ結構ナコトデ
アルト思ヒマス、樺太廳ト致シマシテモ、
出來ル限りサウ云フコトヲ勸メテ行キタイ
ト考ヘテ居リマス、ソレカラ家屋ノ建築其
ノ他ガ非常ニオ粗末デゴザイマスコトハ事
實デゴザイマシテ、是ハ日本人ノ通有ダト
申シテモ宜イカモ知レマセヌガ、暑イ臺灣
ニ參リマシテモ、寒イ樺太ニ參リマシテモ、
其ノ建物ノ様式ハ全ク内地其ノ儘ノ様式デ
ゴザイマス、是ハ決シテ八紘一宇、世界ニ
雄飛スベキ大和民族トシテ其ノ勇氣ハ賞ス
ベシデアリマスルガ、餘リ感心シタコトデ
ハナイト考ヘマシテ、ソレノノ氣候風土
ニ適應シタ衣食住ヲ持ッベキデアラウト實
ハ考ヘテ居リマス、左様ナ意味ヲ以チマシ
テ、本年度カラ中央試験所内ニ保健部ト云
フモノヲ設ケマシテ、亞寒地帯ニ於ケル衣
食住ノ試験研究ヲ致スコトニ相成ッテ居リ
マス、今日ニナッテサウ云フコトヲ始メタイ
ト云フコトハ甚ダ遅キノ感ガアリマスルガ、
ソレニ致シマシテモ尙遲クハナイト考ヘテ
折角係ノ者ヲ督勵致シマシテ、速カニ結果
ヲ得マシテ住民ニ指導ヲ與ヘタイト考ヘテ
居リマス、サウシテ定住性ノ問題デゴザイ
マスルガ、是モドウシテモ初代ノ者ヨリモ
第二世ト申シマスルカ、アノ土地デ生レタ
者ノ方ガ土地ノ愛著ノ念ガ強イヤウデゴザ
イマス、現在樺太ニ於キマシテハ領有以來
三十五年ニ相成リマスルガ、丁度第二世ガ
働キ盛リトシテ第一線ニ活動ヲ始メタ時代
デゴザイマス、此ノ第二世ノ連中ハ、樺太

ニ對スル考ハ我々モ餘程違フト思ヒマスルガ、我々以上ノ考ヲ持ッテ居リマシテ、眞ニ自分ノ墳墓ノ地ト考ヘテ居ルヤウデゴザイマス、今後年數ヲ經ルニ從ッテ、此ノ島民ノ樺太島愛著ノ念ハ益々熾烈ニ相成ッテ來ルト、實ハ期待ヲ致シテ居ルヤウナ次第デゴザイマス

○秋田三一君 樺太ニ内地カラ人ヲ送ッテ、アレダケノ廣イ土地ニ早クモウ少シ人間ヲ増加サセタイト云フ感ジハ私共モ齊シク持ッ者デアリマスルガ、土地ニ對スル感ジ、無論農業モ結構デアリマスルガ、先程御話アリマシタヤウニ、石炭ヲ採ッテ又行ッテシマフノデハナイカト云フヤウナ感ジガナイデモナイト云フコトヲチヨット窺ハレタノデアリマスルガ、私ハアレダケノ資源ノアル所デアルカラ、農業固ヨリ結構デアリマスルガ、丁度山口縣ノ宇部ノ如ク、其ノ石炭ヲ利用スル加工場ヲ拵ヘテ行カレタナラバ、アレダケノ資源ヲ採出シテ循環的ニ生産シテ行カレタナラバ、樺太トシテハ相當長ク又繁榮ガ來サレノデハナイカト思フノデアリマス、現在既ニ人造石油トカ、或ハボツボツ工場ガ出來カケテ居リマスガ、石炭ヲ利用シタ工場ヲアソコニ誘致サレテ行ッタナラバ、之ニ依ッテモ十分長ク樺太ノ繁榮ヲ齎シ得ルモノダト思ヒマス、尙寧ろ其ノ方ガ早く開發シ、又一般ノ人間ノ性格ニ適シテ都會生活モ出來ルコトデアリマスカラ、容易デハナイカトモ思フノデアリマスガ、此ノ點ニ關シテドウ云フ考ヲ持ッテ居リマスカ

○政府委員(小河正儀君) 長官ト致シマシテハ全然同様ナル考ヲ持ッテ居リマス、先程申上ゲマシタノハ、島内ノ住民ノ一部ニ左

様ナ感情ヲ持ッテ居ル者ガアルト云フコトヲ申上ゲタノデゴザイマシテ、今日ノ樺太ノ地下資源ヲ豫定ノ如ク開發ヲシテ參リマシテモ、茲百年ヤソコラデ盡キルモノトモ考ヘテ居リマセヌノデ、此ノ地下資源開發ニ依ッテ樺太ノ經濟狀態ヲ開發シテ行クト云フコトハ、誠ニ結構ナコトデアルト考ヘテ居リマス、ソレカラ特ニ此ノ原料ヲ其ノ儘出サズニ、加工ヲ致シテ出スト云フコトモ全ク同様ナル考ヲ持ッテ居リマシテ、只今デコソ内地ノ燃料ガ不足致シテ居リマスルノデ、之ガ補給ヲ致シマスト云フコトガ今日ノ時局下トシテ最モ急務デアリマスルノデ、左様ニ致シテ居リマスルケレドモ、元來考ヘテ見マスルナラバ、之ヲ輸送シマスルノニハ大量ノ船腹ヲ要スルコトデゴザイマス、之ヲ製品ニシテ出シマスナラバ、其ノ船腹モ何分ノ一カデ済ムト云フコトニナリマシテ、輸送上ノ條件モ餘程樂ニナルコトダト考ヘテ居リマス、又加工場ガ樺太ニ出來ルト云フコトニ因ッテ、樺太ノ繁榮ト云フ意味モ加ルコトデアラウト思ヒマスルノデ、内地ニ於ケルソレノ消費ヲサレテ居ル用途ニ依リマシテ、無論立地條件ヲ考ヘナケレバナリマセヌガ、其ノ立地條件ニ於テ缺クル所ノナイ工業ハ成ルベク現地ニ移シテ、現地ニ於テ此ノ原料ヲ加工シタ製品ヲ移入スルト云フ方ニ持ッテ行キタイト思ヒマシテ、其ノ點ハ第十二條ノ第一項第五號ニアリマスル其ノ他ノ事業デスガ、斯ウ云フ項目ニ依リマシテ將來之ヲ開發經營スルヤウニ、十二條ノ第一項ノ第三號及第五號、此ノ二ツノ關聯ニ依リマシテ其ノ方ノ仕事ヲ進メテ行キタイト斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマス

○秋田三一君 私共聞イテ居リマス所デハ、既ニ樺太ニ於テハ相當ノ企業家ガ進出シマシテ、炭鑛ニ於キマシテモ又木材方面ニ於キマシテモ、ソレノ企業ヲシテ居ルヤウデアリマス、此ノ儘デ之ヲ助成シテ行ッタナラバ相當ノ發展ヲ爲シ得ルノデハナイカト思フノデアリマスガ、此ノ樺太開發會社トシマシテハ、寧ろサウ云フ今御話ニナッタ十二條ノ三號、ソレカラ又五號ノヤウナ方面ニ御力ヲ御入レニナッテ、直營ト云フヨリモサウシタ方面ニ、助成方面ニ御力ヲ御入レニナッタ方ガ適切デハナイカト思フノデアリマスガ、或ハ又先刻御話ノ多少ノ缺損デモ補ヒハヤラナケレバナラスト云フヤウナ點カラシテ、利益ノアルコトヲ直營シテナサラナケレバナラスト云フコトニナルカモ知レマセヌガ、將來ハドウシテモ内地ノ企業家カ、又其ノ土地ニ於ケル住民ノ企業心ヲ振ヒ起サシテモ宜イノデアリマスルケレドモ、兎ニ角會社ガ直接ヤルヨリモ一般人ガヤルコトヲ助成セラル、コトニ向ハレタラドウカト思フノデアリマス、又若シ利益ガアルヤウデアレバ現在問題ニナッテ居リマス船舶ト云フモノニデモ、普通ノモノガヤレナイコトヲコチラノ方デ助成シテ、サウシテ冬季間デモ運搬ノ出來ルヤウナコトヲ御計畫ニナッタラ如何カト思ヒマスガ、之ニ對スル御考ハ如何デスカ

○政府委員(小河正儀君) 從來樺太デ石炭ノ採掘業ヲヤッテ居リマス企業家ハ相當ニ澤山アルノデゴザイマシテ、數ヘ舉ゲテ見マスレバ三井、三菱、山下、鑛業、昭和鑛業ノ傍系、日本製鐵、日鐵鑛業、日本發送電、ソレカラ川崎汽船ノ傍系ノ會社、ソレカラ日本鋼管ノ傍系會社、東邦電力、鐘紡、日曹、

帝燃、石原産業、各種ノ企業家ガ企業ヲ致シテ居リマシテ、ソレノ相當ノ成績ヲ上ゲテ居ルノデアリマスルガ、此ノ各企業家ニ對シテハソレノ十分ナル指導ト援助トヲ與ヘテ、益々企業ノ發展スルヤウニ之ヲ伸バシテ行キタイト考ヘテ居リマス、唯此ノ會社ガ何故石炭ヲヤルカト云フコトニナリマスレバ、矢張りソレ等ノ會社ガ開發ヲ致シテ居リマスモノ、今回此ノ會社ニ開發セシメヨウト致シマスル炭田ハ獨立シタ特別ノ企業ノ對象トナルベキダケノ埋藏量ヲ持ッテ居リマシテ、サウシテ一團地ヲ成シテ居ルノデ、一企業單位ヲ成シテ居ルノデゴザイマス、從ッテ之ヲ企業致シマスルノハ、獨立シタ一ツノ企業ヲヤラサナケレバナラスト云フコトニ相成ルノデゴザイマシテ、左様ナル場合ニ於キマシテハ之ヲ特殊會社ニ經營サセルト云フコトハ、樺太廳ノ所管ノ鑛區デアルト云フ意味デ無理ノナイコトデアルト斯様ニ考ヘマシタノデ、此ノ會社ニ經營ヲセシメル積リデアリマス、ソレカラ其ノ外ノ只今御質問ニアリマシタ企業家ト提携ヲシテ、他ノ各部門ノ企業ヲ進展セシメルベキコトデアリマス點ハ全然御同様ニ考ヘテ居リマシテ、此ノ會社成立ノ上ハ努メテサウ云フ方面ト提携致シマシテ、左様ナル方面ノ企業ヲ與サセタイト斯様ニ考ヘテ居リマス

○秋田三一君 最後ニ今一ツ御尋ネシタイト思フノデアリマスガ、此ノ會社ノ目論見ハ拜見シタノデアリマスガ、サウ云フ立派ナ企業單位ニナル炭田ヲ御持チニナッテ居レバ、相當採算上ニモ御確信ガアルコトト思フノデアリマスガ、一面又犧牲ナ御仕事モナサラナケレバナライノデアリマス

ガ、斯ウ云フ會社ノ配當ニ付キマシテハ、色々保護サレテ居ルヤウニ見受ケルノデアリマス。ケレドモ、政府カラ保證デモナサレバ餘程仕事ガヤリ易イノデハナイカトモ思ハレルノデアリマス。ケレドモ、其ノ點ハ今ノ所デハ別ニ必要ハナイ譯デアリマス。或ハ又アツテモヤラナイト云フ狀態ニ在ルノデアリマス。此ノ配當ニ付テ、又其ノ成績ニ付テノ當局ノ御確信ヲ伺ヒタイト思ヒマス。

○政府委員(北島謙次郎君) 私カラ御答ヘ

致シタイト思ヒマス、此ノ會社ニ關シマシテハ、只今御尋ノ配當ノ點ハ、御覽ニナリマス。通り民間配當ガ六分ノ割合ニ達スル迄ハ政府ノ持株ニ對シテハ配當シナクモ宜シイ、サウ云フ消極的ノ意味ノ民間株ニ對スル優先權ヲ認メ、政府株ニ對シテ劣後株ト云フ譯ニマア相成ッテ居リマス。是ハ先例ト致シマシテ臺灣拓殖ノ例ニ則ッテノデアリマス。御話ノ通り例ヘバ六分迄政府ノ方デ配當ヲ保證スルト云フヤウナ風ニ致シマス。レバ、尙是ガ完全ニ相成ル譯デアリマス、併シマア大體此ノ程度ノ年數ガ經チマスレバ六分或ハ七分見當、少クモ六分見當ハ民間株ニ對シテ配當シ得ルダラウト云フ採算ノ下ニ、此ノ程度大體十分デアラウト云フ見透シヲ立テ、居リマス、尙ソレカラ今ノ先例カラ申シマシテモ、大體斯ウ云フ所デマア穩當デハナカラウカ、旁、サウ云フ見地カラ今回ノ案ヲ提出致シマシタヤウナ次第デアリマス、從來政府ノ例ヘバ配當ヲ六分保證スルト申シマシテモ、實ハ配當保證ト申シテモ、缺損ガアツタ場合ニ無制限ニ配當、六分ノ配當ヲスル、六分ノ配當シ得ル迄ニ如何程迄ノ缺損デモ政府ノ方デ補填シ

テヤツテ、尙且六分ノ配當ヲスルト云フ趣旨デハゴザイマセヌデ、民間配當ニ對シテ六分ノ配當ヲシ得ル限度迄政府ノ方デ補給スルト云フノガ配當保證ノ例カト私承知致シテ居ルノデアリマス、此ノ樺太開發ノ案ノ場合ニ於キマシテハ、民間配當ガ六分ニ達スル迄ハ、即チ達シナカッタ場合ニ於テハ政府ノ持株ニ對シテ配當シナクモ宜シイ、其ノ間多少ノ開キハゴザイマス。程度ノ差ハゴザイマス。矢張り政府ノ方ハ半額ノ二千五百萬圓、又差當リト致シマス。ルト千二百五十萬圓ノ拂込金ヲ持ッテ居ル譯デゴザイマス。其ノ民間配當ノ千二百五十萬圓ノ配當ニ對シテ、六分ノ配當ヲシ得ル狀態ニ達スル迄政府ノ持株ニ對シテ配當シナクモ宜イト云フ次第デゴザイマシテ、純粹六分配當ノ場合トハ多少程度ノ差コソゴザイマス。ケレドモ、六分配當ノ保證ト申シマシテモ、只今申上ゲマスルヤウニ缺損ガアツタ場合、ソレヲ無制限ニ補給スル趣旨デハゴザイマセヌデ、所謂配當補給ガ行クニハ間違ヒゴザイマセヌデ、ソレ程ノ非常ナ差異……非常ナ此ノ會社ニ對シテ冷遇シタト云フ風ニハ、我々トシテハ考ヘテ居ナイヤウナ次第デアリマス。

○秋田三三君 民間デ持ッ株ガ五十萬株アルヤウデアリマス。最近ノ一般ノ民間ノ狀態ハ色々會社ノ配當ヲ制限サレタリ、公債ヲ持タナケレバナラヌト云フヤウナ風デ、相當手許ガ窮屈ナノデアリマス。是ハ一部公募ナサルヤウデモアリマス。大體割當其ノ他御見込ガ立ッテ居ル譯デアリマス。又島内ニモ持セルヤウナ御話ヲ承ッタノデアリマス。島内ノ此ノ株ニ對スル希望ト申シマス。氣持ト云フモノガドン

ナ狀態デアリマス。其ノ點ヲ參考ノ爲ニ一ツ伺ッテ置キマス。

○政府委員(小河正儀君) 此ノ會社ノ總株

數百萬株デゴザイマス。其ノ内五十萬株政府出資、五十萬株民間出資ト計畫ヲ致シテ居リマス。申デ、若干ノ株ヲ先程申上ゲタト思ヒマス。ガ、マダ愈ノ割當ヲ決メテ居リマセヌデ、三萬乃至五萬デアリマス。或ハ十萬ニナリマス。是ハ設立委員ガ出來マシテ、其ノ方ノ非常ニ堪能ナ御方ノ御考ノ後ニ決メタイト實ハ思ッテ居リマス。ガ、或數ノ株ヲ公募致シタイト考ヘテ居リマス、其ノ株式ニ對スル樺太島民ノ期待ハ、此ノ會社ニ對シマシテハ相當ニ採算上不利デハナイ、又此ノ會社ガ樺太ニ於テ活動ヲシテ戴キタイト、斯ウ云フ希望ト兩方カラ以チマシテ、人氣ハ相當ニ立ッテ居ルヤウデアリマス。昨日モ申上ゲタカト思ヒマス。ガ、島内デ三萬株位ノ消化ヲスルコトハムヅカシクナイノデハナカラウカ、マア私ノ見込デハ三萬乃至五萬ガ島内ニ於テ消化セラレルノデハナイカト考ヘテ居リマス、其ノ餘ノ株ノ割當ニ關シマシテハ、マダ割當ヲ致シテ居リマセヌシ、計畫モゴザイマセヌデ、大體今迄仕事ヲ致シテ居リマス關係上東拓、ソレカラ樺太ニ特殊ノ事業關係ヲ持ッテ居リマス各企業家ニソレノ其ノ數ニ應ジマシテ相當ナル株式ヲ引受ヲ御願ヒ致シタイト考ヘテ居リマシテ、此ノ點ニ付キマシテハ、只今ノ見込デハ左程困難ハ見ナインノデハナイカト實ハ豫想致シテ居リマス。

○委員長(伯爵兒玉秀雄君) 外ニ御質疑ガ

ゴザイマセヌケレバチヨット私ニ質問ノ機會ヲ與ヘテ戴キタイト思フノデアリマス、只今秋田君カラ御質問ガアリマシタ政府ノ

保證ノ問題ニ聯關スルノデアリマス。ガ、今回ノ會社ハ國策會社デアッテ政府ガ半分出資ヲシ、半分ハ民間ニ之ヲ求メルト云フコトニナルノデアリマス、從ッテ株式ノ募集ヲシマスル場合ニ於テ、能ク此ノ會社ソレ自身ノ將來性ヲハッキリ認識サセテ行クト云フコトガ非常ニ必要ナコトダト思フノデアリマス、從ヒマシテ仕事ノ内容ヲ明白ニスルト云フコト同時ニ、將來株主ニナル人ガ安心ヲシテ此ノ株ニ應ズルト云フコトガ、株式應募、即チ設立ニ關スル重要ナル點デアル、斯ウ考ヘテ居ルノデアリマス、只今秋田君ノ御質問ニナリマシタ政府ノ保證ノ問題デアリマス。ガ、成ル程此ノ政府ノ保證ガアリマス。ト云フト、非常ニ株主ハ安心スルノデアリマス。ガ、併シ一面カラ斯ウ冷靜ニ見マスト云フト、會社ノ事業内容ノ上カラ見ルト云フト、政府ガ六分ノ保證迄モシナケレバ此ノ會社ハ成立チ得ナイノダト云フ一種ノ不安モ亦ソコニ漂ハシハセヌカト、コンナヤウナ風ニモ考ヘマス。ノデ、幸ニシテ政府出資ニ對シマスル六分迄ノ配當ヲシナクモ宜シイト云フ恩典ガアリマス。レバ、ソレニ依リマシテ會社ノ經營ガ理想通りニ行クト云フコトデアレバ、誠ニ結構ナコトト思フノデアリマス。ガ、併シ會社ノ仕事ヲ見マスト云フト利益ニナルベキ方面ト、必ズシモ利益ガ直チニ伴ハナイ方面トガアルヤウニ觀察セラレルノデアリマス、即チ石炭竝ニ木材ノ方ニ於キマシテハ、是ハ利益ガアルト確認セラレルノデアリマス。ケレドモ、木材關係ニ對シマシテモ植林ノ場面、尙又所謂機械化農業ノ點、此ノ點ニ付キマシテハ國策會社トシテ幾ラカ機性的ノ仕事ノ部分ニ屬スルヤウナ風ニ考ヘマス。

ルノデ、ソコデ此ノ會社ノ綜合的の利益ノ計算ヲシテ見マスと云フト、初年度ガ五分、其ノ次ガ六分、七分ト云フ計算ニ、綜合的ニハ此處デ計算ガ出テ居ルノデアリマスケレドモ、此ノ計算ノ基礎ヲモウ少シハッキリシテ置クト云フコトガ必要デハナイダラウカ、斯ウ私ハ感ズルノデアリマス、ソレ故ニ私ガ御説明ヲ願ヒタイト思フノハ、石炭經營ニ依ッテドウ云フ利益ガ出テ來ルカ、ソレカラ木材ノ經營デドレダケ利益ガ出テ來ルカ、而シテ今度ハ植林ノ方面ニ於テドウ云フ差當リ經費ヲ要スルデアラウカ、ソレカラ更ニ又機械化農業ノ點ニ於テ差當リノ所ドウ云フ計算ニナルデアラウカ、ソレデ差引勘定シテ見レバ、綜合的ニハ此處ニ現レテ居ルヤウナ計算ガ十分ニ出ルノダト云フコトヲハッキリサレテ置クト云フ事柄ガ、世間カラ見マシテ此ノ會社ニ對スル信頼ノ度ヲ高メ、從ッテ株式募集モ容易ナラシメ得ルノデアリマスシ、尙又將來其ノ配當ガ持續セラレルナラバ、社債ノ募集ニ付テモ亦有利ナ結果ヲ來スノデアリマスカラ、政府委員ニ於キマシテ只今私ガ御質問申上ゲマシタ點ヲ一ツハッキリシテ戴キタイ、斯ウ思ヒマス

○政府委員(植場鐵三君) 只今御質問ノ點ニ付キマシテ私カラ概略御説明申上ゲタイト思フノデアリマスガ、御手許ニ御配リ致シテ居リマス參考資料ノ中ニ收支豫算書ト云フモノガ、九頁デアリマスガ、附イテ居リマス、此ノ豫算書ニハ五年間ノ總益金ト總損金ト差引キ純益金、利益率ダケヲ攝ヒ摘シテ計上致シマシタノデ、其ノ内容ニ付キマシテ今少シ細カク申上ゲルコトガ、同時ニ只今委員長カラノ御質問ノ御答ニナルノデハ

ナカラウカト存ジマスノデ、ソレヲ申上ゲテ見タイト思フノデアリマス、先ヅ此ノ總益金ナリ總損金ナリ計上致シテ居リマスノハ、只今御話ノ出マシタヤウニ石炭事業、伐採事業、造林事業、ソレカラ農業ト云フモノノ數字ヲ合計致シタノデアリマス、其ノ中ノ石炭事業ニ付テ申上ゲマス、石炭ハ第一年度カラ十萬「トン」出ス計畫デ居リマス、二年度、三年度、四年度ト行ッテ、五年度ニ於テハ八十萬「トン」ニ相成ッテ居リマシテ、六年度カラ百萬「トン」ノ基本計畫ニ入ル譯デアリマスガ、其ノ第一年度ノ收入ハ百二十八萬四千圓トナリマス、支出ガ九十四萬四千圓、差引第一年度ノ利益金ガ三十四萬圓ト云フコトニ相成リマス、第五年度八十萬「トン」計畫ノ場合ニハ收入ガ千二百十九萬八千圓、支出ガ八百九十六萬八千圓、差引利益金ガ三百二十三萬圓ト云フコトニ相成リマス、是ガ此ノ五箇年間ニ上ッテ居リマス石炭ノ分ノ利益デアリマス、次ハ斫伐事業デアリマス、斫伐事業ハ御承知ノ通り樺太ノ事業ト致シマシテハ、夏冬兩季ニ行ヒマシテ、冬季ノ雪上運搬ト春季ノ流送搬出ニ依ラナケレバナナイト云フ關係ガアリマスノデ、其ノ販賣モ毎年之ヲ二期ニ分ケテ、斫伐年次ニ於テハ其ノ五割ダケガ殘ッテ翌年度ニ入レルト云フ細カイ計算ニ相成ルノデアリマスノデ、茲ニ第一年度トシテ計畫致シテ居リマス丸太百萬石伐採計畫ノ五十萬石分ダケガ第一年度ニ賣ル計算ニ相成ルノデアリマス、第二年度ハ二百五十萬石ノ丸太ヲ矢張り同ジク半分ダシ賣リマス、前年カラ繰越シテ居リマス五十萬石ヲ入レマシテ、第二年度ハ百七十五萬石ヲ賣ルト云フ計畫ニナル、第三年度以降

ハ半分繰越シマスノト、半分前年カラ受ケテ參リマスノト丁度二百五十萬石ヅツト云フコトニ相成リマスルガ、ソコデ收入全體ヲ申上ゲマスルト、第一年度ハ收入ガ五百萬圓デアリマシテ、支出ガ四百三十七萬千九百圓、差引利益ガ六十二萬八千八百圓ト云フコトニ相成リマス、ソレカラ第五年度ハ二千五百萬圓ノ收入ニ對シマシテ、支出ガ二千二百十五萬五千七百二十六圓、差引利益ガ二百八十四萬四千圓ト云フコトニ相成ルノデアリマス、次ハ造林事業デゴザイマスガ、造林事業ハ昨日來樺太長官ノ御説明ニモアリマシタ通り、第一年度ニ於キマシテハ建物其ノ他ノ準備ヲ致シマシテ、實際ニ一千町歩ノ下種造林ヲ致シマスノガ第二年度次ニ入ルノデアリマス、處ガ本事業ハ十九年次以降デナケレバ收入ガ上ラナイノデアリマス、從ヒマシテ十九年次迄ハ所謂收入ヲ計上スル譯ニハ參リマセス、第一年度ノ支出ハ四萬八千餘圓デアリマシテ、是ハ主トシテ準備ノ爲ノ人件費、或ハ建物修繕等ヲ見込シテ居リマス、ソレカラ第五年度次ニ一萬町歩ノ造林計畫ニ入ルノデアリマス、年次ニ入リマシテ支出ガ二十三萬八千圓ニ相成ルノデアリマス、是ハ全然損ニ上ッテ參ル譯デアリマス、ソレカラ次ハ農業デゴザイマスガ、農業モ是亦先般來ノ説明ニモゴザイマシタ通り、第一年度ニハ著手シナイ積リデアリマスノデ、自然第二年度カラト云フコトニ相成ルノデアリマスガ、支出ハ第二年度次ニハ僅カニ五萬七千餘圓デアリマシテ、第五年度次ニナリマシテ收入ガ百十六萬九千圓、支出ガ百二十七萬一千圓、差引十萬二千圓ノ差損ガ出テ來ルコトニ相成ルノデアリマス、ソレデ、農業經營ニ於

キマシテハ第六年度次迄「マイナス」ガ出マシテ、第七年度以降順次利益ガ増加シテ來ルト云フ目論見デ居ルノデアリマシテ、御承知ノ通り國庫補助ヲ普通ノ程度受ケマシタ此ノ種ノ農業經營ガ、或程度ノ利廻リトナルト云フコトハ、一應想像ガ出來ル處デアリマス、唯併シ此ノ數年間ハ缺損期間ガゴザイマシテ、是等ノ利益ノナイ期間ヲ相當資本ヲ寢カスト云フコトガ考ヘラレマスノデ、利廻リハ全體ヲ通算致シマスルト、大體六分見當ニナルノデハナカラウカト、只今ノ所デハ考ヘテ居リマス、併シナガラ例ヘバ十二年或ハ十四年ト云フヤウな年次ヲ押エマス、其ノ年ダケノ利廻リハ或ハ六分ニナツタリ、七分ニナツタリ、八分近クニモ相成ルト云フコトガ、一應計算ノ上デ出テ參ルノデアリマス、其ノ他土地ニハ土地ノ値上リト云フヤウな問題モゴザイマスシ、是等ノモノハ相當將來ノ含ミヲ持ッテ居ルノデハナカラウカト考ヘテ居ルノデアリマス、以上ノヤウな計算カラ致シマシテ、之ヲ更ニ集計致シマシテ第一年度ノ事業收入ト云フモノガ六百二十八萬四千圓、ソレカラ支出ノ内デ事業經費トシテ計上スベキモノガ五百三十六萬四千圓ニ、總掛リ費デゴザイマス、社費トカ或ハ所得稅、戰時利得稅、營業收益稅等ノ諸稅、或ハ使用料ト云フモノヲ加ヘマシテ、ソレガ五百六十四萬五千圓バカリニ相成ルノデアリマス、差引利益ト致シマシテハ、六十三萬八千圓ト云フ計算ニ相成ルノデアリマス、ソレガ丁度拂込資本金ガ二千五百萬圓デアリマスノデ、利益率ハ二・六パーセントト云フ數字ヲ出シタノデアリマス、第五年度次ヲ拾ッテ見マス、只今申上ゲマシタ

事業收入ハ三千八百三十六萬七千圓ニ相成

ルノデアリマス、事業經費ガ三千二百六十三萬三千圓、其ノ外ニ約百六十萬圓バカリノ社費、或ハ債券發行ノ利息トカ、或ハ諸稅ト云フヤウナモノガ入リマシテ、差引利益金ガ三百九十六萬二千圓ト云フ數字ニ相成リマス、此ノ五年次ニハ既ニ全額拂込ニナツテ居リマス、五千萬圓ニ對スル利益率ガ七・九パーセントト云フコトニ相成ル

ノデアリマス、大體事業ノ内容ヲ申上ゲマスト、利益ノ關係ハ右様デゴザイマス

○委員長(伯爵兒玉秀雄君) チョット伺ヒマス、第一年度ニ於テ拂込資本ガ二千五百萬圓、ソレニ對シテ二分六厘ト云フコトニナルノデスカ

○政府委員(植場鐵三君) 左様デゴザイマス

○委員長(伯爵兒玉秀雄君) サウスルト云フト民間ノ配當ト云フモノハ五分二厘、斯ウ云フコトニナリマスカ

○政府委員(植場鐵三君) 御手許ニゴザイマス參考書ノ利益金處分案ヲ御覽願ヒマスト、實ハ第一年次ハ配當金ヲ計上シテナイノデゴザイマス、其ノ理由ト致シマシテ、此ノ表ニモゴザイマス通り、當期純益ハ六十三萬九千圓ゴザイマスガ、法定積立金ダトカ、或ハ特別積立金其ノ他ヲ差引キマスト、大シタ金ガ殘ラヌノデゴザイマス、一應殘リマシタ全部ヲ利益ノ繰越金トシテ計算シタイ、斯ウ考ヘテ居リマス

○委員長(伯爵兒玉秀雄君) チョット伺ヒマスガ、サウスルト、差引純益金ト云フモノハ、繰越金デアルトカ、配當準備金等ヲ引イタモノデスカ

○政府委員(植場鐵三君) 左様デゴザイマス

○委員長(伯爵兒玉秀雄君) ソレヲ引クト一年度ニハ配當ガナク、二年度ニ於テ五分八厘ノ配當ニナル、斯ウ云フ計算デスカ

○政府委員(植場鐵三君) 左様デゴザイマス

○水野甚次郎君 此ノ戴イテ居リマス參考資料ノ今御説明ニナリマシタ三年度ノ利益率カラ四年度ガ下ツテ居リマスガ、ドウ云フ計算カラ斯ウナルノデスカ

○政府委員(植場鐵三君) 先程御説明申上ゲマシタヤウナ各年次ニ付キマシテ、支出ト收入トヲ計算致シマシテ出タノデゴザイマスルガ、丁度三年次、四年次ニハ未拂込金ノ徴收ト云フノガ始ツテ參リマス、其ノ資本額ノ方ガ動イテ參リマス、從ツテ利益率ガ必ズシモ利益ニ伴ツテ率トシテハ上ツテ來ナイ、斯ウ云フコトニ相成ルノデゴザイマス

○委員長(伯爵兒玉秀雄君) 何カ外ニ御質問ゴザイマセヌデセウカ

○有賀光豐君 農業ノコトヲ伺ヒタイノデアリマスガ、衆議院デモ非常ニ此ノコトニ關心ヲ拂ツテ委員諸君ガ論議ヲ盡シテ居ルヤウデアリマス、又此ノ貴族院ノ委員會デモ皆サンカラ其ノ御話ガアツタノデアリマス、此ノ衆議院ノ御説明ニ依リマスト云フト、勞力等ノ補充上困難ヲ感ズルカラ、出來得ルナラバ大農式ヲ採ラズシテ普通ノ方式デ行キタイケレドモ、勞力ノ補充等ニ思フヤウニ行カナイカラ、此ノ機械化農業ヲ採ラタノダト云フヤウナ説明ヲシテ居ラレルヤウデアリマスガ、チョット考ヘマスト機械化農業、大農法、何レカラ觀察致シマシアモ非常ナ進歩的デ、非常ニ經營上愉快

ナルコトデアリマス、併シ機械化農業即チ大農式デアリマスカラ、之ニ從事スル農夫ト云フ者ハ、全然農業上ノ勞働者デ、普通ノ小農法デ言フ農民ヨリ一層農業ノ專門ノ勞働者ニナルノデアリマス、デスカ大農式ニ依ル耕作スル人ノ求メルコトハ非常ナ難儀ダト思フノデス、普通ノ小農式ノ移民ヲシテ農業ヲサセルヨリモ、大農式ノ純然タル工場ニ於ケル勞働者ト同ジヤウナ、農業勞務者ト云フ者ヲ集メテ、直營ヲ大農式デスルト云フコトハ非常ナ困難ナコトデアアルト思フ、樺太長官ノ衆議院ノ説明ノ中ニモアリマスガ、現ニ樺太大農式デヤッタ或會社ガ失敗シタト云フコトヲ述ベテ居ラレマス、私共モ經驗ガアリマスガ、朝鮮ニ於テ大農、機械農法ヲヤラウト思ヒマシテ、非常ニ苦心シタ會社ガアリマシタガ、遂ニ自滅ヲシテシマッタノデゴザイマス、若シ是ガ日本ニ於テ皆ク適用出來ルナラバ、滿洲ナドノ移民農業ニ之ヲ適用シテ居ル譯デス、ナカノソレハ出來ナイ、ソレカラ北海道ニ例ヲ採リマシテモ、開拓使以來「アメリカ」式ノ大農機械化農法ト云フモノヲ植エ付ケヨウトシテ、遂ニ成立セナシタ譯デス、恐ラク私ハハチヨット机上ノ上デ考ヘルト、機械ヲ働カシテ大キキヤルカラ宜イト云フ風ニチョット考ヘマスガ、ナカノ一ハ難儀ノコトデハナイカ、ソレカラ天然ノ氣候ヤ總テノ條件ガ好イ場合ニ於テヤレバ格別、何ト申シテモ樺太ハ條件ガ惡イ、之ニ持ツテ行ツテ大農式デヤルト云フヤウナコトハ、ドウモ失敗シヤセスカト云フ懸念ヲ私共持ツノデアリマス、若シ樺太ニ此ノ機械化大農式ガ宜シイ、其ノ方針ヲ採ラルトシタナラバ、此ノ會社以外ノ農業政策ト云フモノハ、ドウ

云フ方法デヤルルカ、矢張り大農式ヲ基準ニシテ御獎勵ニナルノデアルカ、外ハ小農式デヤラシテ、此ノ會社ノ場合ニ於テノミ大農機械化農法デヤラウト云フ御考デアルノカ、ソレ等ノ點モ不明デモアリマス、又此ノ會社ト致シマシテモドウモヤツテ見テ皆ク行カスト云フヤウナ結果ニ、萬一ナリハセスカト云フ懸念ヲ持ツ者デアリマス、ソレデ併シ此ノ立派ナ御計畫デアリマスルカラ、オヤリニナツテ其ノ成績ヲ上ゲレバ、勿論必要ナ將來日本ノ農業ノ上ニ於テ、大キナ試驗ニモナリマス、又失敗サレテモソレモ一ツノ試驗ニナラウカト思フノデアリマスルガ、少クトモ此ノ方法ヲ御採リニナラバ、漸ヲ逐ウテ進ンデ戴キタイ、二百町歩一單位位ニオヤリナサルト云フコトガ書イテアリマスルガ、幾地點モ一緒ニ澤山オヤリナサラヌデ、段々ヤツテ行カレル方ガ宜イデヤナイカト私ハ考ヘルノデアリマス、ドウモ私共モ日本ノ如何ニモ箱庭的ノ、園藝的ノ農法ト云フモノニ嫌ラズシテ、機械的ニヤルト云フコトハ、誰シモ考ヘルコトデアアル、併シ日本ノ農業ノ中心ノ水田ハ絕對ニ機械化大農式ハ出來マセヌ、又畑地ニ致シマシテモ日本内地ハ無論出來マセヌガ、サレバト云フデ日本ノ農民ト云フ者ガ、之ニ適シナイデヤナイカ、デ機械化農場ノ農夫コソハ本當ノ農業上ノ單ナル勞務者デスカラ、此ノ單ナル勞務者ヲ集メテ來テ、ソレニヤラセルト云フコトハナカノ一ムツカシイコトダラウト思フノデアリマス、勿論ソレ等ノコトニ付キマシテハ、右カラモ左カラモ御研究ノ上御考ニナツタコトハ存ジマスルガ、兎モ角私共ノ知ル範圍ノ從來カラノ經驗カラ言ヒマスト、頗ル懸念サ

レコトデアリマス、段々ト此ノ委員會ニ於キマシテモ、此ノ點ニ付テ御心配ニナル方モアリ、今又委員長ノ收支明瞭ニスルト云フ御質問ノ御趣旨カラシマシテモ、此ノ一點ガ稍、不安ニ私共感ズルノデアリマス。カラ、先ヅサウ云フ明確ナル御説明ガ御有リナサルナラバソレヲ伺ヒタイノデアリマスルガ、若シマダ經驗ハナイガ是非共ヤッテ見ルト云フ御信念デヤレルト云フコトナラバ、ソレデ一向差支ナイノデアリマス。ガ、唯私ノ述ベマシタコトモ、御參考ノ一端ニ供シテ戴ケマスレバ幸ノコトデアリマス。

○政府委員(植田鐵三君) 便宜私カラ御答ヘ申上ゲマス、只今ノ有賀サンノ御懸念、至極御尤モデアルト思ッテ居リマス、私共ノ方ニ於キマシテモ大農ヲ機械化シテヤリマシタ綜合的ノ試驗ノ結果ハ持チ合シテ居リマセスコトハ、度々申上ゲタ通りデゴザイマス、樺太ト致シマシテハ、元來成ルベク多數ノ人ヲ植エ付ケルコトガ宜イコトデアリマス。ノデ、出來得ベクンバ一戸平均ノ小農ヲ多數ヲ植エ付ケタイ、斯様ニハ考ヘテ居リマス。今日ノ情勢デ努力ガ足リマセス實情ニアリマス。時デアリマス。カラシテ、又從ッテ樺太ノ農業ト致シマシテハ、春ノ播種期、起耕期ト云フモノガ非常ニ短イ期間ニヤラナレバナリマセヌノデ、其ノ期間ニ能率ヲ上ゲルベク機械化農法ト云フモノヲ採リ入レタ次第デゴザイマス、綜合的ノ機械農業ニ付テノ試驗ノ結果ハゴザイマセスガ、各部門々々ノ試驗ノ結果ハ試驗場ニ於テ其ノ成績ガゴザイマス。ソレヲ綜合致シマシテ實ハ計畫致シタヤウナ次第デゴザイマス、衆議院ニ於テ、御尋ノアリマシタ際ニ、初メ申シ違ヘテ後カラ

訂正ヲ致シタノデアリマス。ルガ、豐原ノ南ニ於テ二百數十町歩ノ畑ヲ大農式ニ經營シタ例ガアッテ、只今止メテ居ルト云フコトガアリマシテ、之ヲ自然ニ止メタヤウニ御答ヲ初メ致シテ居タノデゴザイマス。ルガ、後カラ取調ベテ見マシタナラバ、火災ニ因ッテ農具倉ヲ燒キマシテ、サウシテ是ガ復舊ガ出來マセヌ結果、到頭止メタノデゴザイマス。ルガ、今日迄續イテ居タナラバ、相當ノ利益ヲ上ゲテ居タラウト推定サレルノデゴザイマス、其ノ當時ノ收穫高及ビ收穫高ニ對シテ今日ノ農産物ノ價格、ソレカラ其ノ當時ノ使用致シマシタ動力、其ノ他家畜ノ飼料等ヲ今日ノ價格ニ於テ計算ヲ致シテ見マシテモ、差益ハ相當大キ上ル實情ニ相成ッテ居リマス、憾ムラクハ火災ノ爲ニ數年前ニ事業ヲ中止致シマシタト云フコトハ、甚ダ遺憾ニ存ジテ居ルノデゴザイマシテ、必ズシモ樺太ノサウ云フ實驗ノ失敗デアッタノデハナイノデゴザイマス、然ラバト云ッテ非常ニ成功シタ實例ガアルカト云フト、ソレモナイノデゴザイマス。ルガ、此ノ點ハ此ノ前申上ゲマシタコトガ間違ッテ居ッテ、後カラ訂正ヲ致シタ點デゴザイマス。ノデ、申上ゲテ置ク次第デゴザイマス、從ッテ此ノ機械化農場ニ於キマシテ、使用スル人數ハ大體二百町歩ノ一農場デ、場長以下十名ヲ使用スル積リデ居リマス、是ハ家畜ニ約六名、モット細カク申シマス、乳牛ニ四人、小家畜其ノ他ノ家畜ニ於キマシテ二人、農業ニ四人、斯ウ云フヤウナ大體ノ計畫デ居ルノデゴザイマス。是モ實ハモウ少シ急速ニ開キタイノデハゴザイマス。只今御懸念モアリマシタヤウナコトヲ顧慮致シマシテ、大體一年ニ二百町歩、五農

場、ソレヲ二年ニ亘ッテ開墾致シマス。ノデ、一箇年ニ五百町歩ツ、ノ開墾ヲ致シテ參リマシテ、二年目カラハ前年ノ五農場ノ残りノ半分ト、其ノ年ニ設ケマス農場ノ半分トアリマスカラ、二年以後ハ一千町歩ツ、開墾シテ植付ヲシテ行ク豫定ニ相成リマス。ガ、大體サウ云フコトデ、十箇年カケテ漸ク一萬町歩ノ開墾ヲシテ、之ヲ經營シテ行カウト云フヤウナ計畫デゴザイマス、唯昨日カラ度々申上ゲマシタヤウニ、資材其ノ他ノ點ニ於キマシテモ、ドウシテモ得ラレヌ場合ニハ此ノ計畫ハ或程度變革ヲ致サナケレバナラス必要ニ迫ラレルコトガナイトハ保シ難イノデアリマス。ガ、先ヅ々々此ノ程度ノ計畫デ進ンデ行ッテ見タイ、斯様ニ考ヘテ居ルヤウナ次第デゴザイマス。

○委員長(伯爵兒玉秀雄君) 如何デゴザイマス。カ、質問ヲ一應此ノ程度デ終了致シタコトニ致シテ置キマシテ、明日午前十時カラ更ニ開キマシテ、マダ質問ノ御殘リノ部分ガゴザイマシタ其ノ時ニ御質問ヲ願フコトニ致シタイト思ヒマス、若シモ御質問ガ終レバ明日討論ニ入りマシテ本案ノ採決ヲ致シタイ、斯ウ思ッテ居リマス、ソレデハ今日ハ此ノ程度デ止メマシテ、明日午前十時ヨリ開會致シマス、本日ハ之ヲ以テ散會致シマス。

午後三時五十六分散會

出席者左ノ如シ

委員長	伯爵兒玉	秀雄君
副委員長	男爵周布	兼道君
委員	公爵岩倉	具榮君
	侯爵井上	三郎君
	子爵米田	國臣君

國務大臣	拓務大臣	秋田	清君
政府委員	拓務次官	北島謙次郎君	
	拓務省殖産局長	植場	鐵三君
	樺太廳長官	小河	正儀君

子爵梅園	篤彦君
子爵綾小路	護君
平塚	廣義君
男爵松田	正之君
男爵西	西乙君
三浦	新七君
有賀	光豐君
水野甚次郎君	
岩田	三史君
秋田	三一君
佐藤助九郎君	